2018年度三重大学人文学部における

F D 活 動

報 告 書

2019年（平成31年）3月

三重大学人文学部

2018 年度 FD 活動報告書に寄せて

人文学部に FD 委員会が設置されたのは 2003 年のことであり、本学部の FD 活動は今年度で 16 年目を迎えました。FD 委員会は毎年「FD 活動報告書」を編集してきたので、これまでの活動の記録を経年的に把握することができます。その報告書よりまとめると、人文学部の FD 活動は、次の５種の取り組みから構成されています。（１）主にカリキュラム単位で行われる FD 研修会、（２）多様な講師を呼んで開かれる FD 講演会、（３）学部生・大学院生を対象とした授業評価アンケート調査、（４）教員を対象とした授業の内容・工夫等に関するアンケート調査、（５）教員対象の FD 活動に関するアンケート調査。かつて行われていた教員による授業参観が実施されなくなったこと、一方で大学院に関する FD 活動の内容が増えたことを除けば、こうした枠組みは、基本的には、これまで大きく変わっていません。それぞれが、人文学部の FD 活動において重要な意味を持ち、それ故に継続されてきたといえます。

しかし、例えば FD 講演会の内容に注目してみると、そのテーマ設定には変化が見られます。2004 年度、2005 年度、2006 年度においては、他大学（佛教大学、京都大学、和歌山大学）の教員をお呼びして、それぞれの大学の FD 活動の実践例から学ぶという内容でした。その後、2007 年度には「大学における不登校学生への対応」、2008 年度には「ハラスメント事例に対して大学がすべきこと、できること」というテーマになり、テーマ設定の幅が広がってきたといえます。最近の例では、2016 年度の講演会は「学生へのキャリア支援について」、2017 年度は「不登校学生等への対応について」、2018 年度は「教養教育におけるアクティブ・ラーニング」というテーマです。授業を進める上での工夫を考えるというだけでなく、様々な側面で学生支援が必要とされるようになり、それに合わせて、講演会のテーマ設定も変わってきたように思われます。

「少子化」などの社会情勢の変化に合わせて、国立大学法人の改革を求める声は高まっているようです。外部からの要請への対応を考えると同時に、FD 活動のような大学内部の活動を基盤にして、今後の大学・学部の有り様を検討するのもまた重要と思われます。人文学部で永年にわたって取り組んできた FD 活動の蓄積を生かして、それをより積極的に今後のカリキュラム改革等に繋げていくべきだと考えます。今後の新たな展開が求められています。

2019 年 9 月

三重大学人文学部長　　安食　和宏

目　　次

2018年度ＦＤ活動報告書に寄せて

Ⅰ．2018年度ＦＤ活動の総括 ----------1

Ⅱ．ＦＤ研修会 ----------3
　１．６月ＦＤ研修会 ----------3
　２．11月ＦＤ研修会 ----------7

Ⅲ．ＦＤ講演会 ----------9
　１．９月ＦＤ講演会の記録 ----------9
　２．講演会配布資料 ---------- 24
　３．講演会のアンケート結果 ---------- 29

Ⅳ．学部生による「授業改善のためのアンケート」 ---------- 31
　１．アンケートの概要 ---------- 31
　２．分析結果 ---------- 45

Ⅴ．教員による「授業に関するアンケート」---------- 47
　１．アンケートの概要 ---------- 47
　２．調査結果 ---------- 47

Ⅵ．大学院に関するＦＤ活動 ---------- 53
　１．大学院生による「授業改善のためのアンケート」---------- 53
　（１）アンケートの概要
　（２）調査結果
　２．「三重の文化と社会」報告会、修士論文発表会への教員の参加 ---------- 54
　３．大学院に関するＦＤ研修会 ---------- 58

Ⅶ．教員による「ＦＤ活動に関するアンケート」---------- 61
　１．アンケートの概要 ---------- 61
　２．調査結果 ---------- 61

巻末資料 ---------- 65
巻末資料１　授業に関する教員アンケート
巻末資料２　三重の文化と社会
巻末資料３　ＦＤ活動に関するアンケート
巻末資料４　2018年度ＦＤ委員会年間活動

Ⅰ．2018 年度FD活動の総括

Ⅰ．2018 年度ＦＤ活動の総括

2018 年度も人文学部は着実にＦＤ活動を行った。カリキュラムの改革を検証し、課題を解決するという実践的なテーマを設定し、以下のような活動を行った。

ＦＤ研修会を 6 月と 11 月に行った。6 月は両学科計８つのカリキュラム単位で前年のアンケート結果に基づき、例年通り「2017 年度実施授業アンケートの自己分析と授業の改善方法」をテーマに、代表者の報告をきいた後、質疑応答の時間をもった。新人教員には他の授業の様子を知るよい機会であり、経験のある教員のなかでも、定期的に授業を見直す機会として、このＦＤ活動は定着している。カリキュラムの教員が集まり、話をするだけでも価値があるという意見も多いが、それだけでなく、各教員の評価の高い授業の方法を知ることや、授業改善への助言など、実際的な有用性をもつ活動となっている。

11 月ＦＤ研修会は、大学院教育に特化して、地域文化論専攻では「哲学・思想、社会、地理学、図書館・情報学」、「言語・文学、歴史学」の２グループ、社会科学専攻は「法制」と「現代経済」の 2 グループに分かれて、「複数指導体制の現状分析」をテーマに、報告者からの話を基に、話し合うという形式をとった。複数指導体制が 2 年目になり、専門性との関係で指導内容について難しさを感じる意見が多くみられたが、特任教員に頼る体制の分野もあり、複数指導体制については、引き続き、注視し、状況に応じて実効性のある方法を確立していく必要のあることが確認された。

9 月にはＦＤ講演会を開催した。今年度は、アクティブ・ラーニングが大学教育でも注目されることが多くなったことをふまえ、専門教育に入る前の教養教育でどのようにアクティブ・ラーニングが行われているかを知るために、教養教育院アクティブ・ラーニング推進室長で教養ワークショップの担当者である野田明氏、推進室員でスタートアップセミナーの構築にずっと携わってこられた長濱文与氏にお話しいただいた。文化学科は独自のスタートアップセミナーを続けており、法律経済学科は 2017 年度から教養教育院のスタートアップセミナーに加わっており、講演についてのアンケートでは、教員の関心も高く、教育内容について具体的に知ることができた点で、人文学部専門教育との接続について問題点もみえてくるなど、有益な講演会となった。

学生による「学びの振り返りと授業改善のためのアンケート」は昨年から、紙媒体でのアンケートが廃止になり、ユニバーサル・パスポートによう回答となった。授業の最後にスマホによる回答を求めることで、昨年よりは回答率が上がったが、特に前期は改善が顕著であった。アンケート項目のなかでも凡その目安となる「授業への満足度」は今年も 4.0 前後で、昨年度から引き続き、高いまま推移している。全般に満足度が高いことは自由記述からも伺えた。

大学院生によるアンケートは回答数が少なすぎて、十分な結果を得られなかったことが課題として残る。修士課程は個人指導が中心になることから、アンケートの形式に馴染まないこともあり、大学院教育全体について回答を求めているが、その趣旨が周知徹底していない面がありそうだ。個人指導を越えた、複数指導体制や、「三重の文化と社会」など独自のカリキュラム体制を活かすためにも、ＦＤ活動にもさらなる工夫が必要だろう。

毎年同じ枠組みでＦＤ活動を行っているが、テーマの設定など、時々の問題を積極的にとりあげ、ＦＤ活動の存在意義も根付いてきているように思う。ＦＤ活動は活用されていると

言えるが、その報告書の刊行が今年は大幅に遅れた。ユニバーサル・パスポートによるアンケート調査になり、他部局の協力が得られることで大いに助かっているが、その結果の掲載方法、新しい形式を模索中であること、ＦＤ委員会が今の活動を行うこと優先で、報告書作成が後回しになりがちであることなど、改善を来年度に期待したい。

2018 年度ＦＤ委員会委員長　小田敦子

Ⅱ．FD研修会

Ⅱ．ＦＤ研修会

１．６月ＦＤ研修会

日時　：2018 年６月 13 日（水）14:00～15:00
テーマ：2017 年度実施学生アンケートの自己分析と改善方法

６月のＦＤ研修会では、例年通り前年度（2017 年度）に実施された「授業に関するアンケート」の集計結果を用いての報告と意見交換が行われた。各カリキュラム単位の研修の概要は以下の通りである。

［１］文化学科

（１）日本地域

出席７名　欠席１名

［授業アンケートについての報告・議論の概要］

◇報告者：塚本明（記録者：小澤毅）

◇報告の概要：教養教育の「スタートアップセミナー」「日本文化論Ｂ（リレー講義）」「日本史Ｃ」、専門教育の「日本の歴史Ｃ」「日本の歴史Ｄ」について、授業の概要と実施にあたり工夫した点、Web による授業アンケート結果の報告と、それに対する分析がおこなわれた。

アンケートの回答率は授業によりばらつきがあるが、リレー講義を除くと学生の評価はきわめて高く、教員側の工夫が学生にもよく伝わって、良好な学習成果につながっていると判断できる。

リレー講義の場合、とくに学外講師では授業の内容や進め方などに統一性を欠くことが評価の低下をもたらしているとみられ、講義自体のありかたを含めて、今後検討する必要性がある。

◇議論の概要：アンケートが示す学生の総合的な満足度が非常に高いため（スタートアップセミナー：5.0、日本史Ｃ：4.9、日本の歴史Ｃ：4.9、日本の歴史Ｄ：4.4、リレー講義の日本文化論は 3.9）、授業の組み立て方や工夫をめぐって活発な質疑応答があった。

グループ学習を含めて、聴講するだけでなく、学生が主体的・積極的に参加できるような授業をおこなうと、学習意欲や学習成果につながりやすい。また、通常は見学できない博物館などのバックヤードツアーも人気を博した。コメントカード（感想のほか、理解度を測ったり、次回の予告や課題を設定したりする）の多用、パワーポイントの利用も効果的である。良い授業には教員と学生との共同作業が不可欠であり、最初にある程度釘を刺して、意欲のない学生を排除するのも有効ではないか。

（２）アジア・オセアニア地域

出席８名　欠席１名

［授業アンケートについての報告・議論の概要］

報告者・記録者：酒井恵子
◇報告の概要：2017 年度開講「アジア・オセアニアの歴史Ａ・Ｂ」（専門）「東洋史Ａ」（教養）について、授業アンケート結果の分析および授業内容・進め方について報告が行われた。どちらの授業も基本的にはリアクションペーパーへのコメント１５分、講義６０分、リアクションペーパー記入時間１５分の構成である。教養科目は高校時代に世界史で習うことがほとんどなく、かつ面白い史料を取り上げていることから、理系学部の受講生がいるにもかかわらず評価はよい。一方、専門科目については、高校世界史知識にひきずられ、講義を聴かず、受験知識でテストの答案を書いたり、ネット上で閲覧可能な論文を複数人で情報共有し、その論文から多くを引用したレポートが提出されるなど、改善方法がみいだせず悩んでいるとのことであった。
◇議論の概要：専門科目の授業満足度が低いことから、授業内容のレベルをさげるべきか報告者より出席者に意見が求められたため、授業の進め方等について意見交換がなされた。
１、リアクションペーパー利用は、双方向の授業であり、５回未提出で基礎点がなくなる仕組みはよい。
２、映像や自分が現地で撮影した写真を多用してはどうか。
３、専門用語については複数年受講すれば理解できるはずであるが、アジオセ学生は１年間しか受講しない（歴史嫌いが多い、文献講読が苦手）ため、内容が難しいようである。ただし、複数年受講する他地域の学生がおり、単位修得も困難でなければ、勉強したい学生のため、授業内容を簡単にする必要はないのではないか。

（３）ヨーロッパ・地中海地域

出席９名、欠席４名
［授業アンケートについての報告・議論の概要］
◇報告者：大喜祐太（記録者：グットマン・ティエリー）
◇報告の概要：本報告では，まず 2017 年度前期の「異文化理解・基礎（ドイツ語）」の授業アンケートの結果を分析した。つづいて，学習の目的と方法についてシラバスの内容を確認した。異文化理解のドイツ語担当では，これまでの授業の問題点を踏まえ，2018 年度から異文化理解Ｉで，各授業の進度やレベルの差を解消するために共通教材および共通テストを導入している。共通教材は，キーセンテンス，基本語彙，ドイツ語圏の文化をまとめたものである。今後の課題として，本年度の学生アンケートや授業担当者からのフィードバックを参考にして，さらなる授業の改善が求められることが示された。
◇議論の概要：まず、学生及び教員にとっての共通教材・共通テストにするメリットについて話し合われた。英語の教養教育授業の場合は共通テストを利用しているが教材に関しては各教員に委ねている。この点、ドイツ語の場合は基礎・演習にそれぞれ違う教科書を担当教員が選択し、更に共通教材もあるため、3 つの教材が同時に使われている状態は学生にとってあまり好ましくないという話になった。また、共通教材においてドイツ文化圏紹介のページがあり、演習の期末テストにおいてドイツ文化に関するテストを今年度から取り入れる予定だとドイツ語の先生から説明があった。

（４）アメリカ地域

出席７名、欠席０名

［授業アンケートについての報告・議論の概要］

◇報告者：立川陽仁（記録者：小田敦子）

◇報告の概要：文化人類学概論 AB は文化学必修科目で、詰め込み式の講義科目として、A(前期)は学説史を、B(後期)は一般的な人類学を教養教育科目の応用編として複雑化し、各回テーマを変えて講義している。構造主義などは３回かけ、小テストを実施し基礎的な知識の定着を確認する。パワポはできるだけ使わず，しゃべりと板書、学生への質問という古典的スタイルを守る。質問は眠気覚ましと学生の反応や知識を知るために有効。学生が主体的に考えるための工夫として、解説した理論について、批判をこころみ、考える余地を示す。期末テストでは事前に課題を出し、次の授業時間に助言の機会を設け、学生にはっぱをかけることで、批判的に考えることを励ましている。

◇議論の概要：学生の満足度も高い授業で、その理由について議論が交わされた。

・学生への質問のしかた、コメントのしかたが秀逸で、くだらない話とみえるものから、人類学の問題を引き出していく。

・質問をするには教室の形が重要で、大きな演習室、小さな教室が最適。IT 講義室は学生が遠く声をかけにくいと不評。

・板書をしながら、話をする間の取り方の重要性。（チョークやホワイトボード用マーカーの質への不満。）

・テスト問題の優れた解答例が提示されたが、全体的に批判的な思考に至らない例も多い。講義の中には必ず批判的な見方を加えるなど、学生を誘導する工夫。

・学生への評価は厳しいが、学生のレポートの質も上がってきており、何年かたつと教員の指導法が学生間にも浸透するのか。

［２］法律経済学科

（１）統治システム履修プログラム（法政コース）

（報告なし）

（２）生活法システム履修プログラム（法政コース）

出席５名、欠席１名

［授業アンケートについての報告・議論の概要］

◇報告者：高橋秀治（記録者：稲垣朋子）

◇報告の概要：昨年度後期の授業科目「法哲学」の授業アンケート結果について、報告・分析がなされた。特に、「授業 1 回あたりの授業外学習」については、Moodle を使い、毎回、予習問題等を課しているとのことで、それなりに予習・復習時間が確保されているとの分析であった。その予習内容（実際の Moodle での提示内容）も紹介いただいた。教員が個別に設ける質問として、「この授業の Moodle のページを毎回よく読んだ」「この授業の Moodle のページに書いてあるまとめは、授業の復習に役立った」等があったが、それらの回答結果を見ても、授業での Moodle 活用の意義を確認することができた。

◇議論の概要：まず、Moodle を授業で使用していない教員からは、どのような活用方法が

あるのか等の質問があった。他の教員から、レジュメを Moodle 上に事前にアップするなどの活用例も紹介された。また、高橋先生が Moodle 上で、学生の質問に答えたり、学生同士の意見交換を促したりされたことについて、学生の反応はどうであったかという質問もされた。その点については、やはり特定の学生に偏るという問題点もあることが指摘された。また、関連する話題として、本年度から学生のパソコン必携化が実施されているが、学生は、スマートフォンと異なりパソコンの操作にはあまり慣れていないようであるとの発言もあった。

（３）地域経済履修プログラム（現代経済コース）

出席６名　欠席０名

［授業アンケートについての報告・議論の概要］

◇報告者・記録者：川地啓介

◇報告の概要：2017 年度前期に開講された専門科目「地方財政論」および教養科目「経済学Ａ」について、下記の通り報告された。

①どちらの授業も講義形式の授業で、パワーポイントを利用し、スライドと同じ内容の資料を配布している。定期的に授業内容についてアンケートを取って理解度を確認しながら授業内容を調整している。

②地方財政論は、制度的な内容と理論的な内容を関係させながら講義するようにしているが、両者のバランスに苦慮している。特に、理論的な内容を講義する際に、近代経済学を受講したことのない受講生がいるため、どこまで基礎的な内容を説明するかを試行錯誤している。

③経済学Ａでは、マクロ経済学の基礎的な内容について講義を行った。他学部生が多く受講していたため、理論的な内容だけでなく実際の経済問題などと関係させて興味を喚起するように注意した。

④地方財政論では、アンケート結果から学生のシラバス活用度が低いことが示されている。

⑤どちらの授業もアンケート結果から授業１回当たりの授業外学習時間が少ないことが示されている。

◇議論の概要

１）配布資料については、ノートパソコンが必携化される受講生が受講するようになったら Moodle の活用を検討してはどうかとの意見が出された。

２）授業で必要となる前提知識をどこまで授業内で説明するかについて、学際的な学科の特性を踏まえて、ある程度までは授業内で完結させてはどうかとの意見が出された。

３）授業外学習時間の少なさについては、受講生に授業時間外に学習するインセンティブを持たせるために、小テストなどを活用してはどうかとの意見が出された。

（４）企業経営履修プログラム（現代経済コース）

出席６名　欠席０名

［授業アンケートについての報告・議論の概要］

◇報告者：堀内義隆、深井英喜（記録者：堀内）

◇報告の概要：冒頭で堀内より、授業アンケートについて、分析をしても授業の改善につながらないため、授業中に配布するコミュニケーションペーパーを通じて、授業改善を図っ

ている旨の報告がなされた。

次に、深井教授より担当科目「経済原論」について、近年学生の理解度が著しく低下している旨の報告があり、授業のレベルを極度に下げることを検討しているが、どう思うかという質問がなされた。

◇議論の概要：

下記のような意見が出された。

・授業アンケートは学生向けではなく、文科省向けのものであるから、ないがしろにできない。
・最近の学生は、高校生時代からアクティブラーニングになれ、むしろ講義形式の授業に耐えられなくなっている。
・学年が上がるとコミュニケーションペーパーの記述内容が向上する。
・初年次に少人数授業で学ぶことの意味を教えてから、講義形式の授業に入っていったほうがよいのではないか。

２．11 月ＦＤ研修会

11 月 14 日（水）に大学院教育に関するＦＤ研修会を実施した。その内容については、本報告書の「Ⅵ．大学院に関するＦＤ活動」に記載した。

Ⅲ. FD講演会

Ⅲ．ＦＤ講演会

１．９月ＦＤ講演会の記録

日時：2018 年 9 月 12 日（水）14:00～15:00

講師：三重大学教養教育院　アクティブ・ラーニング推進室長　野田　明

スタートアップセミナー部会　　長濱文与

演題：「教養教育におけるアクティブ・ラーニング」

「人文学部ＦＤ講演会　2018 年９月」

【司会】　今日はＦＤ講演会ということで、教養教育院から、アクティブラーニングを中心になって担当されている野田明先生と、スタートアップセミナーにずっとご尽力いただいています長濱文与先生からお話を伺いたいと思います。

教養教育機構には、私も一昨年まで３年間在籍していましたが、その１年目は教養ワークショップを開講するために、全教員がどういうふうに授業を行うかというレクチャーを１年間ずっと受けるということがＦＤの中心でした。その際には、スタートアップセミナーを以前から担当されている長濱先生に、必修科目で多くの学生にグループワークさせる方法などを教えていただきました。教養教育機構は若い先生も多くて、初めて授業を担当されるというような方も多いですので、ＦＤ研修会というのが結構盛んで、かつ皆さん積極的に取り組んでいるというのが、教養教育に行って非常に強い印象を持ったことです。

教養教育は人文学部の教員もたくさん担当していますけれども、人文学部は個人プレーが主体ですので、隣の人のすることはあまりということが多いのですが、教養教育の様子も分かっていただけると、また専門教育についても、1 年生の時にどういう授業を受けて、専門の授業を受けているのかというのが分かると、役に立つこともあるのではないかと思って、今回の講演会はお２人に実践報告という形でお願いしました。どうぞよろしくお願いいたします。

【長濱】　失礼いたします。教養教育院の長濱文与と申します。まずは私のほうからお話しさせていただきますが、本日はこのような機会をいただきまして、どうもありがとうございます。貴重な時間を頂戴しまして、教養教育におけるアクティブラーニングについて

ご紹介させていただきます。

資料に沿ってお話しさせていただきます。まず、共通カリキュラムというのはもう先生方ご存じだと思いますが、本日はその中のアクティブラーニングの２科目、前期・スタートアップセミナーと後期・教養ワークショップについて、長濱と野田でご説明申し上げます。

この２科目の運営体制なのですが、副院長が推進室長のアクティブラーニング推進室という組織があります。アクティブラーニング推進室の下に２つの科目の部会がぶら下がっている構図となっているので，各部会長がメンバーとして入っております。各部会は、全担当者が入っています。そこで毎年検討を重ねて、次年のスタートアップセミナー、教養ワークショップに備えるということで進めております。

それでは、スタートアップセミナーについてお話しさせていただきます。今、回覧もしていただいておりますが、スタートアップセミナーはテキストを作成しており、毎年改訂しております。テキストではその回のテーマ、概要、関連する４つの力の下位要素、講義部分のポイント、参考等で構成されており，後ろのほうには切り取り式のワークシート類があり、学生たちに購入してもらいます。教科書というよりもワークブックという形になります。

では、スタートアップセミナーの概要からお話しいたします。スタートアップセミナーは、１年前期２単位の科目です。特徴としては、どのクラスで受講しても同じような学習経験、学習内容が獲得できるというのが大きな特徴かと思います。統一テキスト、統一シラバス、統一の授業案を作成しております。同じような学習内容、学習体験を三重大学の全ての１年生に積んでもらうというコンセプトで始まりました。

先ほども申し上げましたが、2009 年から始まり、今年で 10 年目になります。現在は全 34 クラスございまして、学部学科に基づく編成という点も変わっておりません。このうち３つのクラスが英語クラスということで、外国人教員が担当しております。基本的には、日本語クラスと同じ内容を英語で行う形で進めています。１クラスは大体 40 名編成で、それを大体４名グループ、全 10 グループをつくるという形で実施しております。今年度の担当者は７名で、先ほども言いましたが、このうち１名が英語クラス担当者ということになります。

３つの大きな到達目標を設定しています。１つ目が、本学の教育目標「４つの力」およびその下位項目を知るということです。教育目標を手掛かりに自分をふり返り、教育目標

に関わる力についての現在の獲得状況や改善目標などを立てるといったプロセスを積み重ねていくことで、自律的な学習者としてのサイクル等も獲得してもらいたいという意図があります。

２つ目に、大学生としてこれから４年間/６年間、学びを進めていく上で必要な、学習スキルの一部を体験的に学ぶということです。各回様々な学習スキルを配置しながら、それを授業の中で個人/グループで体験しながら学ぶ、ということを目標としています。

３つ目が、プロジェクト活動を通して、グループ活動に必要な姿勢やスキルを体験しながら学ぶ、ということです。グループメンバーと一緒に、共通の目標に向かって力を合わせていくということがどういうことなのか、そこにはどのような工夫や意識や行動が必要なのか等について体験的に理解し、獲得していくことが目標になっております。

では、実際のプロジェクト活動の内容についてご説明します。それは、COC+事業の関連で COC+関係の先生方に大変お世話になりながら、三重県や三重県の各市町が抱える課題や取り組みついてビデオ教材を作っていただいています。それらを学生たちが視聴し、その中からグループとして取り上げたいトピックを選択し、そこからさらに自分たちで検証可能な具体的問いに絞り込んでいって、探究プロセスを経て、最終発表を行うというプロジェクトを実施しております。

三重県の課題における具体的なトピックというのが、例えば、人口減少、県内就職率向上、教育・ひとづくり、医療・介護・福祉、防災・減災、スポーツ等です。その下にあげておりますのが、今年度前期に私が担当しました法律経済学科クラスの全 9 グループが立てた具体的問いです。これらの問いを自分たちで設定し、問いに対する答えを導くための情報を収集し､必要であれば内容に関連する各専門家のところにインタビューに行ったり、同じ学生同士でアンケート調査をしたりしながら、自分たちの結論というのを導き、全グループ無事に発表してくれました。

このようなプロジェクト活動を実施するための全 15 回の内容を､次に並べております。実際のプロジェクトの内容に入るのが、第３回アイデアの発想からになります。最終発表が 13 回・14 回ですので、約 10 週かけてプロジェクトを完成させていく流れになっています。

先ほど申し上げた三重県に関わるビデオ教材について，全員が第 3 回までに視聴し、内容をワークシートにまとめてきます。このように毎回課題を出しますが、毎回の課題は次回のグループで議論する内容になるよう位置づけており、各自の考えを準備した上で授業

に臨み、より議論が深まるような構造を意図しています。

共通の目標達成に向かって、各自がグループの議論や活動に貢献することを果たせるようなグループ活動を実現するために、プロジェクトの内容に入る前の第２回に「グループ活動の基本」という回を設けています。一緒に共通の目標を遂行していかなければいけない、そのために全員がどのような意識を持ち、どのような行動をとる必要があるのか考えます。

最終回、第 15 回には、自分たちのプロジェクト活動がどうだったかについてふり返る回です。他のグループの人たちと教員から同じ評価基準で、発表に対する評価をもらうので、その結果をフィードバックし、得られた結果を含めて自分たちのプロジェクト活動について自己評価したり、授業全体の振り返りをして終えます。

実際にどんな力を伸ばしていくことを目指すかというのは、さまざまあるのですが、特に取り上げれば、この辺りかと考えています。全学部の１年生対象ですので、専門に特化した内容ではなく、どの専門分野でも必要となるような、どこでも活用可能となるような、スキルを習得することを目標にしています。

１つ目が、研究プロセス全体の体験です。自分たちで問いを立てるところから、最終報告するというところまでを一通りやってみるということです。この辺りは専門によって細かい部分は異なるとは思うのですが、一般的なプロセスを想定しています。例えば、いわゆる調べ学習と大学で求められている学習と何が違うのかという点を強調したり、客観的根拠に基づいて説得的しなければならない点などを強調しています。それを１人でやるのではなくて、４人のグループメンバーと一緒にやりながら楽しみながら、時にはグループだからこその難しさも体験しながら、全グループ最後の発表までもっていっています。

２つ目が、小グループでのコミュニケーションスキルです。これは一方的な講義ばかりの 15 回ではなく、全回にグループでの議論活動を入れておりますので、そこはおのずと伸ばす機会になっているのではないかと思います。単に彼らが現在持っているスキルを使って実践させるだけではなく、よりよい話の聞き方、分かりやすく伝える伝え方、反論するときに相手に受け入れてもらいやすい伝え方など、様々なコミュニケーションスキルの解説もしながら、それを意識して実践するといったスキルトレーニングの要素も入れております。この授業以外の場面でも意識的に活用してほしいと伝えています。

３点目が、自律的学習者としてのスキルです。学びに使える情報収集の方法，収集した情報の活用方法等を実践しています。また、大学でも社会でも、自分で自分の学びをうま

くマネジメントするという点を視野に入れながら、自分で学びのめあてを持って、それをいつまでに、どのように実践し、実践後に振り返り、次にどう活かすか、といった学びのPDCAを回すことや可視化することなどを取り上げています。

中間発表を含め、合計３回分を発表と質疑応答、評価の回として設けています。全員が発表者になることも実現しているので、効果的なプレゼンテーションのノウハウを学んだ上で、それを実践するという機会になっています。上手く発表することが重要なスキルであることは目に見えやすいのですが、その発表を実現するために重要な、聴き手としての聴き方についても言及しています。短時間で分かりやすく、重要な質問をする方法、効果的に応答する方法、説明責任を果たせるような評価者としての意識や具体的な方法等についても扱っています。画像にあるような一定の評価基準を設けて活用しています。

本日はアクティブラーニングという観点から２つの授業を紹介させていただくというお話をいただいておりますので、次のスライドにはスタートアップセミナーがアクティブラーニングを活発にするための工夫として取り入れていることというのを並べさせていただきました。

１つ目が協同的な学習集団の形成です。先ほども触れましたが、仲良くことが目的のグループでもなく、特定の学生だけが頑張ってプロジェクトさえ完成させればよいのでもない、全員の力が合わさって初めてできるようなグループ活動なのだというのを随所で強調しているという点です。第２回から最終回まで、グループ替えをせず同じメンバーで進めていきます。グループ活動を重ねていきながら、グループ自体もどんどん成長していくというふうな意図を持っています。

２つ目、グループ運営の工夫です。ただ物理的にグループを形成し、活動内容を示すだけではグループ活動に慣れている学生しかスムーズに活動できません。特に１年生前期ですし、これまでのグループ活動経験も様々です。どんな学生でも迷わずスムーズに議論に参画できるよう、前半では特に課題明示を丁寧に実践しています。また、いわゆるフリーライダー､フリーライドするということができないような活動になるよう工夫しています。例えば、毎回の課題を各自に出すのですが、それは次のグループ活動の素材/準備の位置付けにしています。課題だから実施しなければならないということだけでなく、グループでの議論を良いものにするために全員が準備してくる、各自が精一杯取り組んで集まれば、それだけ議論が活性化する、といった形になるよう工夫をしております。

ふり返りというのもいろんなところにちりばめて配置しています。実施して終わりでは

なく、自分の行動について自分自身はどうとらえているか、同じグループのメンバーはどうとらえているか等を言語化したりしています。それらを踏まえ、次回のグループ活動はここをこのように改善しようといった形で、自分たちで自分を/グループを成長させていくイメージで実施しています。

これも小さくて申し訳ないですが、授業で使用しているスライドの一例です。左の縦２枚が第２回のグループ活動での講義部分になります。このような内容を伝えながら、全員で１つの課題達成に向けて協力していくために、こういうことをそれぞれが意識して実行してねと説明しています。右側の２枚が活動をする時のスライドになります。このように、今から何について、どんな手順で、どの程度の時間をかけて、誰からやるのか、という内容について明示したものの例です。

スタートアップセミナーとしては最後になりますが、授業の評価方法です。評価の仕方はいろんな考えがあって、グループ活動を用いた授業だからといって、グループに対する評価を個人の評価に含めなければいけないということはありません。これは研究者の中でも意見の分かれるところです。しかし、現在のスタートアップセミナーでは、学習の結果だけではなくて取り組みのプロセスも評価として含めたいという考えから、多面的な評価方法で成績を算出しています。下に黒字で並んでいるものが評価の対象物です。評価の観点としては多いので、教員は自分たちで首を絞めている感じですが、多数の提出物、成果、授業中の取り組み方などが対象になります。もちろん何が評価対象になるかについては、第１回から学生に明示しています。

以上、スタートアップセミナーについてのご説明を終わります。

【野田】　替わりまして、野田です。よろしくお願いします。教養ワークショップは、新書を読んで書評を書くという、2015 年度から始まった授業です。スライドに映っているのは最初の年の優秀書評集で、あと、おととしと去年、３年分の優秀書評集を今、回覧させていただいています。

開講の背景としては、最近学生が本を読まないし、レポートの書き方というのも大学に入っていきなりそれを課されるのだけれども、ネットから単に引き写しをしたり、引用の仕方とかがめちゃくちゃだったりして。本学、三重大全部がそういうわけではもちろんないですけれど、一般的に読んだり書いたりの十分な基礎訓練というのが欠けているという状況があり、前期のスタートアップは「聞く」「話す」ですので、後期は何か本を読ませてまとまった文章を書かせようというものです。2015 年度後期からスタートしました。実際

にはそれより前から、教養の改革について議論されていたので、3年以上の経緯があって、スタートしたものです。1年生全学必修で、教員がグループ活動を媒介する、ファシリテーターとなって、半期で論説文、ハウツーものや小説などは避けて、論説文を1冊は読んで書評を書きます。それを通して、文章の読解、要約の仕方から文章の書き方、引用の方法などを学ぶ。

前期にスタートアップセミナーがあるので、学生はグループ学習には自然になじんでいます。それを踏まえて1クラスが大体30人程度なので、それを6つぐらいの班に分ける。5人掛ける6班で 30 人。大体これが基本で、多少クラスの人数によって変動しますが、学生は毎回本を読んで手書きの読書シートを作成し、読書シートに基づく討論、ピアレビューをします。お互いに文章をチェックしあい、それによって他者の視点に立って書くことを学び、最終的には書評を提出します。

具体的な授業計画で言いますと、最初の1回目と真ん中あたりの7回目に、ビブリオバトルというものをやります。これはそれぞれが推薦する本を持ってきて、その本に関して、ルールがあるのですけれど、5分間プレゼンをして、その後2分間、質疑応答があって、最後は指で指してグループのチャンピオン本（チャンプ本）を選ぶというものです。ビブリオバトルを、まず1回目は自己紹介のため、グループの雰囲気をなじませるためにやります。「人を通じて本を知る、本を通じて人を知る」ために使っています。

最初のビブリオバトルの時は漫画でもいい、何でもいいから、とにかく自分の好きな本を持ってこいという前提なので、自動車教習所の教習本を持ってきたりとか、結構いろんな学生が漫画を持ってきたりします。本番としては、大事なほうは7回目で、このビブリオバトルは書評を書く新書を選定するために行います。

新書といっても、そもそも新書って最近出た新しい本のことなんですかみたいな意識の学生も多いので、新書とは何か、また主題の把握や要約の仕方、批判的読解とか、前半は割と講義的にやって、もちろん学生自身にも考えさせるのですが、7回目のところで実際本当の書評を書く新書を選んで、その後は具体的な読書計画の立案、さらに書評の作成は3段階ぐらいに分けて、いろいろ学生間で読ませたり、教員ももちろんアドバイスはするんですけれども、学生自身に考えさせ、書き直しをさせていきます。

特に 13 回目ぐらい、お正月が明けて1月最初の授業で書評の形になったものを出させるので、その間に学生はかなり頑張って、その後、この後ご紹介するピアレビューや、グループ活動のピア評価などを経て第 15 回の総括に至るというスケジュールを組んでいま

す。

読書シートは、読みながら、読んだ内容の要点とか疑問点を書いて、疑問点、問題点についてはグループで議論します。ただし、書評そのものは個人で書くので、１つのグループで同じ本を読むけれども、出来上がる書評自体はもちろんそれぞれ違う。同じ本を読んでいても、それぞれ個人が書評を書くので、仕上がった書評は別のものになります。

グループワークとしては、同じ本を読んでいるので、お互いが書いた書評を、互いに書き方が分かりにくいとか、要約や引用の仕方がこれはおかしいんじゃないかということをグループの中で相互評価して、推敲し、書き直していくという、そういう過程になっています。

読書シートというのはワードの電子ファイルではなく、あえて手書きで書かせていまして、図を入れたり、大事なところは線を引かせたりして、毎回学生に書かせています。教員も毎週この手書きの読書シートを見て、おかしなところは赤を入れたりしています。

教養ワークショップでもピア評価、学生間の評価を導入していて、１つは書評に関する評価シートで、指定された文字数で書かれているか、適切な書式であるかなど、幾つかの項目に分けて、学生間で書評の評価をしています。

ちょっと細かいですけど、13 回目の授業は同じ班、同じグループの中でお互いの書評を採点するので、これは自分も読んでいる同じ本に対して他の学生の書評を採点する。一方 14 回目は班外のメンバーなので、この時は自分は読んでない本について、他の班の学生の書評を読んで採点するという形で、このように２回、学生同士で評価を行わせています。

先ほどスタートアップセミナーでグループ活動をどううまく活性化していくかという話がありましたが、教養ワークショップのグループ活動に関しても、学生間のピア評価を導入していまして、こういうマークシートを使っています。入力は、後で紹介させていただきますが、ムードル上で行い、自動的に集計ができるようになっています。

研究倫理教育は教養ワークショップで特に重要と考えていることです。三重大でもコピペの問題があって、最近もレポートで剽窃するような事例が発生しています。教養ワークショップでは研究倫理について授業１回を使ってかなり詳しく、グループでも学生自身も考えていますし、講義としても、教員のほうからも口酸っぱく言っています。盗用、剽窃したらいくらいいものでも駄目になるのだということを強調して。

それと関連するのですけれど、②のほうは本の要約の仕方と引用の方法です。引用する時に、直接引用する時と間接的に引用する時があって、内容を自分のことばで要約しなが

ら、その中で元の本の趣旨を入れる場合と、本の筆者の言葉そのものを伝えたいときにはかぎ括弧に入れるんだぞとか、そういう引用の仕方も少し例を挙げたりして詳しく、先々専門でも必要になることかと思いますし､最低限のことを学ばせようとしています｡また、コピペルナーという、学生の剽窃を機械的にチェックできるソフトがあるので、それも導入してチェックしています。

デジタル支援機器というのは、左側の、これが読書シートで、学生がここにいろいろ本の要約や、自分のコメント、手書きなんで本当に学生によって、きれいに書いたり、図が入っていたり､読みにくかったり､いろんなのがあるのですけど､それを書かれた読書シートを、こういう複合機がありまして、ここでスキャンをしてムードル上に上げます。教員が右のところに点数もつけられるようになっていまして、ムードルにすぐ上げて、次の週の授業を待たなくても、学生がすぐ見ようと思えばムードル上に上げられた教員のコメント付きの読書シートを見て、そこでフィードバックが可能になります。教員にとっても、紙そのものは（読書シートは紙ですので）次の週に学生に返すので、教員のほうも管理が楽になります。それから右側のほうがさきほど説明した学生間のピア評価で使ったマークシートですが、これもエクセルで集計することが可能です。

優秀書評集は、各クラスで、担当教員が自分のクラスの、例えば 30 人担当していたら、その 30 編の書評のうち一番優れているものを選ぶので、ですからクラスの数だけ、44 クラスあると 44 の優秀書評が集まり、それを刊行して、会議等で配布させていただいています。

書評を書くルールとしては、分量は 1600 から 2000 字。できる限り 2000 字に近づけろと言っています。2000 字でよいのかという議論もあろうかと思いますけれども、現状これを目安にして書かせています。先ほど言いましたように、2 回目のビブリオバトルが重要で、その本で書評を書くんだから、いくら面白いと思っても内容がないのは避けろと。逆に、いい本でも、専門的すぎて、あまりにも専門的だと書けないという場合もあって、そこは難しいのですけれど、基本的に論説文で書くということは守らせています。学生が書評の対象にする本を選ぶ参考に、教員のほうから推薦図書を示していまして、それが 100 冊ほどあります。学生はそこから選ぶこともできる。もちろん、グループで決定すれば、推薦図書以外でも構わないので、強制ではありません。

書評の構成に戻りますと、字数は 1600 から 2000 字で、構成としては一応三部構成を指示しています。まず「導入」、次に「紹介」で本の内容を要約し、最後に論評部、ここで学

生の視点でコメントをして締めくくるという、三部構成です。実際の本当の書評のように、もっと自由に書かせたらいいのではないかという議論もあるかもしれませんが、入学してくるいろんな学生がいますので、最低限、作文が苦手な子でも、この枠に沿って書けば書けるという、形は作っています。

実際には未熟な点もあると思うので、今優秀書評集を見て頂いて、優秀書評集と言ってもこんな程度かと思われるかもしれませんが、ここに載っている書評はすべて、教員はコメント・アドバイスはしますが、手は加えておりません。学生が自分で考え、推敲して書いた成果です。

この授業の意義としては、とにかく本を読ませて、要約や引用の訓練をする。感想文じゃないのだということは繰り返し言っています。独りよがりの思い込みで面白かったでは駄目だと。何らか根拠を示して、客観的に書けと言っています。

ただ、本当の学問の世界の書評ではもちろんありませんので、その辺の指導はなかなか難しいものがあります。本当に専門の書評となったら、当然その対象になっている本だけでなく、そのテーマに関していろんなほかの文献や先行研究、場合によっては現地に行かれたりして大変な調査とか研究が要ると思いますけど、それではないので。そこはちょっと難しいんですけど、私たちが教養教育でやらせている「書評」というのは、教育するための書評、最終的には、学生がここで卒業論文を書く、あるいは社会に出た時にちゃんと文章が書けて、人の文章を盗んだりしない。他者の視点に立って分かりやすく、自分の意見を発信できるということが目的です。

教養教育は教員の入れ替わりがありまして、私も一応３年任期の２回目で、今５年目ですが、授業の担当者が変わるわけです。教養ワークショップに関しても、どういうものを学生に書評として書かせるか、いろんな教員が集まっている集団ですので、必ずしも完全に合意が取れているわけではなく、年に 10 回か 11 回ある FD 研修会のうち、３回か４回は教養ワークショップに割いています。今でも、どういうふうに授業を持っていったらいいのか、どこで引用の仕方を説明したらいいのかとか、毎回毎回研修して、お互いに勉強しながら作っています。

【司会】　ありがとうございました。

【野田】　すみません。もう１枚スライドがありました。学生に選ばれた本は例えばこんな本で、これは初年度の 2015 年度に書評の対象になった新書の上位７つです。これを見るとその時の学生の関心、どういう本を選んでいるか、人間関係、関係の空気、場の空気

だとか、あるいは心理や教育、就職に関する本とかが選ばれていて、学生の興味関心を反映していると思われます。ここまでです。すみません。時間を超過しました。

【司会】　ありがとうございました。私が最初に教養ワークショップを担当した時は、学生のアンケートで、前期のスタートアップセミナーは何が目的なのかよく分かったが、後期は何をしているのかよく分からなかったと。私などは自分が割と書くほうが専門なので、何でこれが分からないんだと思いましたけれども、そういう学生の意見とか、必修で取らされている学生をどう扱うかとか、本当にいろいろスタートアップセミナーから学ぶところは多かったなと思っているのですけども。

文化学科の会議でも、スタートアップセミナーについてはいろいろご質問が出ましたので、ぜひ皆さん、この機会に疑問に思っていらっしゃることをお尋ねください。

【質問者１】　お話ありがとうございました。必修の、文化学科はちょっと違う状況にはなっているのですけれど、ワークショップのほうは、全学必修の授業でどういうもの、しかも後々の専門に関わってくることの基礎をたたき込まれている段階で、どのような教育が行われているかというのは、われわれ専門の教員が知らなかった、あるいは情報交換をしてこなかったということは今まで問題であったし、もったいなかったのかなというか、そういうふうにちょっと思っています。これはわれわれのほうの反省でもあったかもしれません。

というのは、もちろん教養にこうしてくれということはなかなか言いにくいというのもあるんでしょうけど、別部署で１年生の時にたたき込まれたことというのは、その後３年間変わらないみたいで、後で修正するのは非常に大変だということがちょっとあります。今回のを見て、実は人文のほうで、しかもいろんな分野によって、例えば引用の仕方と範囲もちょっとずつ違うんですね。

例えば書評の場合だと、要約して引用というのが主流だと思いますし、理系なんかもそうだと思うんですけど、文系で論文という形になってくると、改変せずに引用するというほうがむしろ大事になってくることがあって、何でも要約した揚げ句に本文の趣旨と違うことで、その論文を書いた人はそんなことは言っていないでしょうというのをベースに論じたりしているというのが出てきて、いくら言っても直らないのは何でだろうと思ったら、これか、と今ちょっと思ったんですね。

要するに、引用の要件を満たしていて、そのまま引用したものは不十分であるとやった上で、その後に要約したものを素晴らしい、問題がないというふうに書かれているけど、

それ以外の価値観もあるということが、どうも１年生の時にたたき込まれてしまうと直らないみたいで、困っているところではあるんです。

例えばリポートの書き方とかも、情報科学基礎で教えていたことがあるんですが、そこでの書式のスタイルをかたくなに守って、「人文系のほうのこちらの分野ではそういう書式は使わないんだよ」では、なかなか直せなくて交ざっちゃうという学生がいます。だから、お互いに情報交換であったりとか、分野によって全然やり方が違うということもあるんだというのも、最初に、これが絶対唯一みたいに１年生の時に刷り込んでしまうと、後々やりにくくなるかなというのをちょっと感じました。それは感想というか、意見でございます。

【野田】　ありがとうございます。教養教育でやっていることに関して、ホームページでもスタートアップセミナーや教養ワークショップについて、概略は説明が載っています。あと、引用の方法ですが、授業内でクラスの中に、特に教養ワークショップの場合は理系の学生も文系の学生も、いろんな学部の学生が交ざっていますので、必ずしも専門に進んだ時にこれが絶対的なやり方ではないということは言っています。一般的な最大公約数の形で、少なくとも他人の文章を勝手に取ってきて自分のものにしたら駄目だよとか、その辺りのところを教育したいと考えています。

【質問者１】　ありがとうございます。分かります。もちろん最低限の共通ルールというのはあるんですけど、そこからの、良いという例が分野によってちょっとずつ違うというのが、先生方はいろいろありますよというのは、もちろんただし書きで書いていらっしゃるし、実際分かるんですけど、実際の学生の様子を見ていると、その後、２年、３年で成長したのを見ていると、あまり臨機応変に自分の専門に応用できない学生がいるから、やはりその専門ごとに、みたいなのをもう１回やり直さなきゃいけないということもある。

だから文化学科が独自にをやるというのは、目的はそれもあるんだと思うんですけど。そこのうまく連絡とか、実態の把握みたいなのが、専門課程のほうと、具体的な内容ですね。骨子とかはわれわれも知っているんですけど、こういう細かいことでやっているのかとかいうのは、なかなかお互い、あるいはこういうことも入れてほしいとかいう要望とかあれがないとか、もっとあるといいなと思います。

【司会】　私はその両方、おっしゃることが分かるんです。本当に短いリポートなのに、「初めに」とか、「終わり」にとかっていう、形式だけが妙に。その辺はやっぱり専門教育で、私とか、そうやって読んだ人がもっと教えていくべきことだと思いますので、本当に

そういう汎用性とか、そういうことを学生にも繰り返し伝えていくということを、教養でも専門でも繰り返しやっていくということが大事なのかなとは、伺っていて思いました。ほかにいかがでしょうか。ご要望なり、ありましたら。

【質問者２】　先ほど、グループ学習のピア評価をされているというのがあったんですけど、学生が相互に評価するということですよね。ちゃんと学生、何というか、まともに評価していますかという、その辺の印象を少し。逆にお互いに気を使って、あんまり辛い評価をしないとか、逆に変な評価をするとか、あまりその辺のところはなくて、割とまじめにお互いに評価されているのか。その辺りをお聞きしたいと。

【野田】　学生には談合しても駄目なんだと言っています。また、最終的には教員がグループの様子を見ているので、不当に褒めすぎとか、不当に辛すぎとか、そういうのは見ていますよということも言っています。確かに、学生相互の評価をどこまで信頼できるかは、今後さらに検証していく課題で、ありがとうございます。今のところ、見た限りでは割と真面目にやっているように思います。

【司会】　ほかには、いかがでしょうか。はい、どうぞ。

【質問者１】　すみません。例えばスタセミみたいな初年次の共通のものとして、これを入れておいてほしいみたいな教員からの要望って、多分年々変わってくると思うんです。学生が変わっていくということで。そういうのって、どういうふうに教養のほうにお伝えしたり、還元させていただくということができますか。例えば、この１年生からパソコンが必携になりましたけれども、スマホ世代なのでメールの送り方がそもそも分からないという子が多くて、教養の別の授業で私が、学生から質問が１年生は多いので、メールの送り方のマナーみたいなのを一からやったんです。

ちゃんと件名は具体的に書くとか、迷惑メールと間違われないようにみたいなことをものすごく細かく言ったら、「英語で読む芭蕉役に立ちました。また来年も後輩のためにやってください」とか、結構そういう感想が多くて、「本当はこれはスタセミとかで共通で全部やっておいてもらったほうがいい話なんだけどな」みたいなのがあるんですけど、何かそういう要望をどこに出せばいいのかなと。ちょっと教えていただければと。

【長濱】　どこに出せばいいかについて、私は答えられないんですが、メールの書き方は残念ながらスタートアップセミナーで扱っているので、それが学生にうまく教育できていないんだなということは反省です。

【質問者１】　多分やってはいるんだけど、レベルが、われわれの思っているのと、多分、

実際、学生の実態が違ってくるというのがあるので。

【長濱】　現状、全学生を対象に、自分でメールを作成して送信して、返信に対して返信してみる、といった一連の体験は積ませられていません。テキストの中にノウハウ、やり方というものを含めているに留まっています。そこが全員の学生には届いていない部分の一つの要因かと思います。

【質問者１】　分かりました。何ていうか、具体的な事例ですね。昔だと、言葉がなっていないというのはマナーの問題だったけど、今は宛名とか送信者名が書いてないとか、ラインの応用みたいな、全然違う事例が発生しているというような、そういうリアルな、教員が分かっている問題をどういうふうに反映できるかというのが気になっているんです。今まではなかったようなトラブルが学生からきていますよというのを上げたいんです。

【司会】　野田先生に言っていただく。

【野田】　そうですね。この場では私とかですかね。

【質問者１】　そういう体制をつくっておいたほうが、体制というのは悪いんですけど、窓口というのか。学科って、教養と別の組織になっているので。

【野田】　体制としては、専門会議です。教育専門会議が現場の具体的な問題を取り扱います。

【司会】　そうですね。専門会議とかで結構細かい話とかも、先月も出ていました。本当に、……先生からも質問がありましたけれども、ピアレビューとかが機能するのかというのは、それは私もちょっと疑問に思ったというか、やっぱりさっきの言葉遣いとかでも、そんなに偉そうにできないわと思うのかもしれないんですけど、学生同士で、ここは字が違うよとか、そういうのは言いなさいとかっていうと、ちょっとはやるんですけれど、結構学生同士で遠慮するところもあるのか、本当にそういうところはどうやっていったらいいのかなというのは課題かと思いますけど、いろいろ問題を出し合って、そのうち知恵も。いろんな人がそれを繰り返し言うことで、伝わっていくところもあるかと思いますので。

【野田】　ちょっと戻りますが、さきほど優秀書評のことを低く、謙遜して低く言い過ぎました。私自身は、よく半年で、実質４カ月しかなくて、学生はよくここまで書いたなと思っています。評価の方法など、まだこれから検討・改善すべき点もあるかもしれませんが、スタートアップセミナーも教養ワークショップも、意義がある、前期後期ともに１年生の必修の授業として意義のある授業だと思っています。

最後に、今週の金曜日に教養教育シンポジウムを開催します。詳しくは教養のホームペー

ジに載っております。まだ学内の先生方の申し込みが少なくて。協同学習の第一人者、久留米大学の安永悟先生に来て頂きます。人文学部の先生方、ぜひご参加ください。ちょうど教養教育のことを知って頂くよい機会でもあります。

【司会】　ありがとうございました。その準備とか、いろいろお忙しい中時間を取っていただきまして、ありがとうございました。（拍手）（終了）

2．講演会配布資料

1

人文学部FD講演会　2018年 9月12日(水)

教養教育における アクティブ･ラーニング

教養教育院

アクティブ･ラーニング推進室長　野田　明

スタートアップセミナー部会　長濱 文与

2

共通カリキュラム

	領域	科目	単位	
教養基盤科目	アクティブ・ラーニング	スタートアップセミナー（前期）	2	
		教養ワークショップ　（後期）	2	
	外国語教育	英語	6	
	異文化理解	異文化理解基礎	2	
		異文化理解演習	2	
	健康科学	スポーツ健康科学	2	
教養統合科目	地域理解･日本理解		2	2
	国際理解･現代社会理解		4	
	現代科学理解		2	
合計			26	

2

3

AL領域2科目の運営体制

- 教養教育院アクティブラーニング推進室
  - 副院長、情報室長、スタートアップセミナー部会長、教養ワークショップ部会長
- スタートアップセミナー部会
  - 担当者7名、毎週(+α)のミーティング（後期も）
  - 授業全体の検討や改善
  - テキスト、授業案の修正・作成
- 教養ワークショップ部会
  - 担当者7名
  - 教員用Moodleコース開設、『優秀書評集』の刊行
  - 授業全体の検討や改善、推薦図書リストの点検

3

4

スタートアップセミナー

5

スタートアップセミナーの概要

- 1年前期、2単位
- 統一テキスト、シラバス、授業案
  - 同じ内容を同じプロセスで学修
- 今年度で10年目
  - 平成21年開講
- 全34クラス　（学部・学科に基づく編成）
  - このうち、3クラスが英語特別プログラム
  - 約40名／1クラス、約4名／1グループ
- 担当教員7名　（平成30年度）
  - このうち、1名が英語特別プログラムクラス担当

5

6

到達目標と内容

- 到達目標
  - 教育目標「4つの力」の内容を理解し、修得する意義や高めるために必要な知識やスキルを考え、実践できる
  - 大学生に必要な学習スキルや方法を学び、実践できる
  - プロジェクト活動を通して、グループでの活動に必要な姿勢やスキルを学び、実践できる
- 活動内容
  - グループでのプロジェクト活動（PBL）

テーマ設定 ▶ 情報収集 ▶ 中間発表 ▶ 情報収集、グループとしての主張・根拠の構築 ▶ 情報や主張の吟味 ▶ 最終発表

6

7

プロジェクトの共通テーマ（平成30年度）

三重県や各市町村が抱える課題について
学問的な観点から検討し、実行可能な提案を行う

- 人口減少、県内就職率向上、教育・ひとづくり、医療・介護・福祉、防災・減災、スポーツ
- 学生の設定した具体的問いの例 （法律経済学科クラス）

・三重ブランドを広めていくにはどのようにしたらよいか？ ―経営学の観点から―
・若者をターゲットに四日市本町通り商店街を発展させるためには、どのような策を取り入れたらよいか？ ―心理学の観点から―
・商店街とショッピングモールを差別化するにはどうしたらよいのか？ ―経営学の観点から―
・三重県への移住人口を増やすためにはどうすればよいか？ ―防災学の観点から―
・東紀州のミカン農家に就農する若者を増やすにはどうしたらよいか？ ―経営戦略論を活用して―
・三重への観光客を増やすための効果的なツアーとは？ ―心理学、行動経済学の観点から―
・地方創生の観点から、大学の取り組みで県内就職率を上げるにはどうしたらよいか？
・東紀州に医師を増やすには？ ―企業経営の観点から―
・三重で被災した外国人（ブラジル人）のケアをどのようにしたら良いか？ ―食物学を活用して―

7

8

全15回の内容（平成30年度）

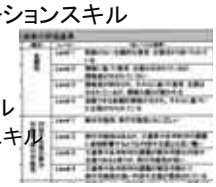
回	テーマ（特に意識する4つの力）	回	テーマ（特に意識する4つの力）
1	導入 （モチベーション）	8	具体的問いの吟味と計画策定 （感性、主体的学習力）
2	グループ活動の基本 （指導力・協調性、社会人としての態度）	9	情報の収集と整理 （論理的思考力、倫理観）
3	アイデアの発想 （感性）	10	情報の吟味 （批判的思考力、論理的思考力）
4	情報収集の目的と方法 （情報受発信力、倫理観）	11	アウトラインの構成 （論理的思考力、批判的思考力）
5	具体的問いの設定に向けた情報収集 （問題解決力、情報受発信力）	12	発表の方法 （情報受発信力）
6	具体的問いの設定 （問題解決力、課題探求力）	13･14	プロジェクト発表と評価①・② （統合力）
7	プロジェクトのピアレビュー （共感、討論・対話力）	15	プロジェクト・授業全体のふり返り （統合力）

8

9

習得を目指すスキル

- 研究プロセス全体の体験と理解
- 小グループでのコミュニケーションスキル
  - 傾聴、ミラーリング、聴く姿勢
  - アサーション
- 自律的学習者としてのスキル
  - 情報収集スキル、情報活用スキル
  - 学びのPDCAサイクル
- 効果的なプレゼンテーションのためのスキル
  - 発表の方法、発表の聴き方
  - 質疑応答の方法
  - 評価の方法



9

10

ALを活発にする工夫

- 協同的な学習集団の形成
  - 共通の目標の達成を目指す、課題遂行型グループ
    - 第2回～最終回まで、同一メンバー
  - グループ活動を遂行していくのに必要な考え方や具体的行動について理解、実践
- グループ運営の工夫
  - 課題明示（活動の内容、方法、手順、時間、等）
    - 慣れてきたら、方法や手順は徐々に学生に任せる
  - 個人思考、参加の平等性の確保
    - ただ乗りができないような活動の構造に
- 学び、活動のふり返り
  - 個人で学びのふり返り、グループで活動のふり返り

10

11

【授業スライドの一例】

講義 グループ活動を成功させるために

1）グループに必要なこと
①目標の共有：全員でグループの目標を共有する
②計画や進行状況の把握
- 全員で情報をきちんと共有する

③積極的な相互作用
- 全員で積極的に関わる
- まめに連絡を取り合う、対面する機会を多くもつ

④相互作用に関するふり返り
- 活動をより良くするために、ふり返り、改善する

講義 グループ活動を成功させるために

2）個人に必要なこと
①グループに貢献することに対して責任を負う
- グループへ貢献、活動への準備、参加の姿勢

②グループ活動の維持に努める
- 現状把握・記録、リーダーシップ、友好な関係性、温かい批判的態度

③グループ活動のためのスキルを向上させる
- きちんと聴く・話す、質問する

④公私の区別
- ON/OFFの切り替え、ストレスコントロール

活動 ①!1 前回課題の共有

- 内容：前回の授業で出した知りたいこと・疑問に思うことのうち、調べてきたこと（2点）をメンバーと共有し、更なる疑問の発想につなげる
- 手順：
  1. 準備（10分）
     - 前回作成した画用紙を見て、自分が調べてきた内容を確認し、分かった情報を簡単に付箋に書き出す。
  2. グループで共有（10分）
     - 一人ずつ順番に、調べてきた情報を分かりやすく説明しながら、分かった情報の付箋を「知りたいこと・疑問」の付箋の近くに貼る。

活動 前回課題【 必読1 】（p.2，3）理解内容の共有

- 内容：「必読1．グループ・プロジェクトについて」の理解内容をメンバーと共有し、議論をしながらさらに理解を深める
- 手順：
  1. 説明の準備 （個人：1分）
     - 下線部を中心に要約したり、キーワードや分かりにくい言葉には説明を加える
     - 1，2分程度で、メンバーに分かりやすく説明できるように
  2. グループで共有 （10分）
  3. グループで議論・確認 （3分）

11

12

評価方法

個人、グループの取り組み、
結果、学習・活動の過程を多面的に評価

- 毎回の課題
- プロジェクト進行過程での作成物
  （ワークシート、情報共有マップ）
- プロジェクト発表に対する評価結果
- ふり返り
  - 個人単位 （毎回、中間、最終）
  - グループ単位 （毎回、最終）
- 授業中の取り組み姿勢 （個人、グループ）

12

13

教養ワークショップ

～新書を読んで書評を書く～

14

開講の背景

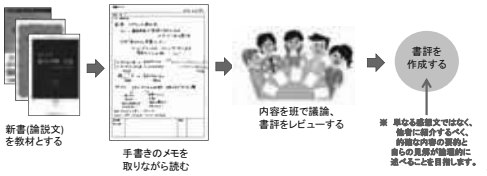
- 問題点
  - 日本の中等教育ではレポートの書き方指導をしていない為、大学に入っていきなりレポートを書くことになっても、どのように書けばいいのか分からず、単なる引き写しになる場合が多い。
  - 本学では、「読む」「書く」は充分な基礎訓練をやってこなかった。
- 2015年度後期スタート
  - 1年生全学必修
  - 新書を読んで書評を書く

14

15

授業の概要

- 教員のファシリテーションの下、半期で新書（基本的に論説文）を一冊以上読んで、書評を書きます。文章の読解、要約、作成に関する解説に加え、スタートアップセミナーで培ったグループ学習も取り入れます。1クラスは30名程度とし、5×6班にわけます。学生は毎回読書シートを作成しつつ本を読み、読書シートに基づく討論や書評のピアレヴューを班で行います。



15

16

授業計画

第1回： ガイダンス・班分け・自己紹介
第2回： 授業の背景、レポートの書き方
第3回： 書評とは、新書とは
第4回： 主題の把握
第5回： 要約の仕方
第6回： 批判的読解
第7回： 書評を書くための新書の選定
第8回： 読書計画の立案
第9回： 読みあわせと書評作成1
第10回： 読みあわせと書評作成2
第11回： 読みあわせと書評作成3
第12回： 書評の作成
第13回： 書評の校正
第14回： 書評の評価・査読
第15回： 総括・アンケート

ビブリオバトル　人を通じて本を知る、本を通じて人を知る

各自新書を読む

ビブリオバトル

班で新書を読む

書評を書く

何度も書き直し

16

17

グループ活動の導入

読書ノートを取りながら読む
↓
読んだ内容の要点・疑問点・問題点についてグループで議論
↓
個人で書評を作成
↓
書評をグループで相互評価
↓
評価に基づき書き直し

クラス・グループ編成
約1,350人（日本語クラス44、英語クラス2）
1クラス30人、5人×6グループが標準
各クラスは、複数学科の学生で構成
20人の教員が担当

17

18

18

19

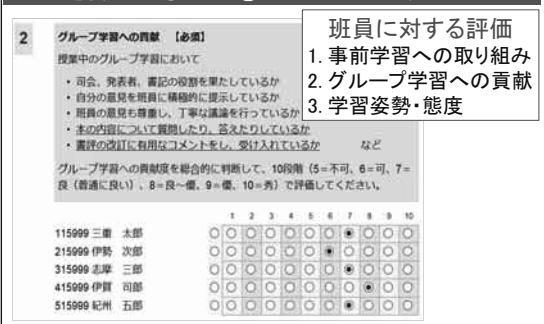
ピア評価の導入　①書評評価シート

第13回授業では、班内のメンバーの書評を採点
第14回授業では、班外のメンバーの書評を採点

19

20

ピア評価の導入　②グループ活動



入力例（Moodle上で行う）

20

21

研究倫理教育の実施

コピペ（盗用・剽窃）の禁止に重点
　①研究倫理の概要を説明
　②要約・引用の方法を教えて繰り返し練習

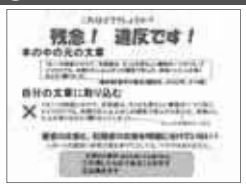
① 研究倫理の概要

スライドの例

21

22

② 要約・引用の練習



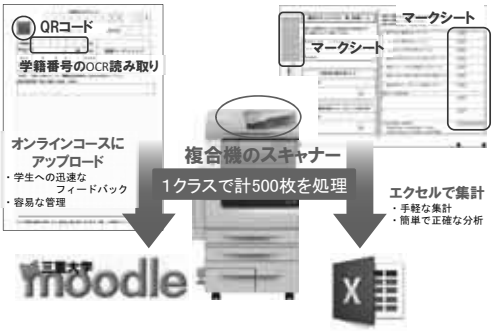
読書ノート（シート）を自分の言葉で書く

提出された最終稿（書評）は、コピペルナーでチェック

22

23

デジタル支援機器



23

24

『優秀書評集』の刊行

44クラス分、44書評（2015年度）
- 担当教員の評価により選定

ルール
- 分量は1600～2000字
- 書評の対象は新書（論説文）
- 推薦図書約100冊を示すも、他も可能
- 導入、紹介、論評の三部構成を指示

完成度
- まだ未熟な点がある
- 学生が相互批評を複数回行うが、刊行にあたって、教員は手を加えておらず

24

25

学生に選ばれた本

全266グループ、124種類の新書

全44クラス、44の優秀書評

『優秀書評』内の数	授業で扱った班の数	対象の新書
7	23	土井隆義『友だち地獄』筑摩書房、2008年
4	10	釘原直樹『人はなぜ集団になると怠けるのか』中央公論新社、2013年
4	4	城繁幸『若者はなぜ3年で辞めるのか？』光文社、2006年
2	12	冷泉彰彦『「関係の空気」「場の空気」』講談社、2006年
2	10	河合隼雄『子どもの宇宙』岩波書店、1987年
2	3	里見清一『偽善の医療』新潮社、2009年
2	2	藤原和博『新しい道徳』筑摩書房、2007年

人間関係

心理・教育

就職

学生の関心の高さを反映か

25

26

人文学部FD講演会　2018年 9月12日(水)

ご清聴ありがとうございました

３．講演会のアンケート結果

回答者数：２２名　　（参加者　50 名）

質問１．今回の講演会の内容について、良かったと思いますか？

① 大変良かった：18%
② 良かった：50%
③ 普通：23%
④ あまり良くなかった：4.5%
⑤ 良くなかった：0%
無回答：4.5%

質問２．アクティブ・ラーニングを取れいれた授業をされていますか。

① している：64%
② したことがある：23%
③ していない：9%
無回答：4%

質問３．今回の講演会で有益だった点、改善した方が良い点があればお書きください。

・それぞれの授業の内容を知ることができた。
・教養の授業の具体的な内容、その工夫を知ることができた。
・フリーライダー対策。しかし、やはりかなり手間がかかるという印象。
・グループ運営の工夫につき、詳細に説明いただいた。演習の運営に活かしていきたい。
・実際のご経験に基づくお話が多く、授業の様子を想像することが易しく、授業の実践のしかたを考えるうえで参考になりました。
・学生からの声の紹介があってもよかったかもしれません。先生方皆懐疑的なので。
人文にいるとわからなかった具体的な授業内での取り組みが広く周知できてよかったのではないかと思います。
・もっと人文からの有益なコメントがあるとよかったと思う。
・片方の説明で１時間必要。
・質疑・意見交換の時間をもう少し余裕をもって取れると良かったと思います。授業の骨子だけでなく、具体的な実施内容を説明していただけたのは良かったです。全学共通、必修で、以降の専門の基礎となる教育については、もっと双方向の意見交換の場が必要だと思いました。
・全学共通のスタートアップセミナーの内容について詳しい説明を聞くことができて有意義だったが、人文・文化学科の導入授業としては、文献資料との向き合い方などの不可欠な点がなく、不適当ではないか、とあらためて感じた。文献学、特に文学の場合、必ずしもグループで意見をまとめたりすることも必要ではないと思う。個々の人の自由な発想をかえって阻害してしまうのではないだろうか。

質問４．今後、FD 講演会で取り上げてもらいたいトピックスがありましたら、お書きください。

・大学院の活性化について、毎年何らかの形で FD 講演会でディスカッションができるとよいと思います。
・ハラスメントについて。
・障害のある学生について。
・ジェンダー/セクシュアリティの多様性に関わる問題。
・学生の就職活動の状況も年々変化していると思われる為、数年前に行ったリクルート関連の専門家から話を聞きたい。学生へ就活の指導に役立てたい。

Ⅳ．学部生による
「授業改善のためのアンケート」

Ⅳ．学部生による「授業改善のためのアンケート」

１．アンケートの概要

①　授業評価実施の目的と方法

三重大学では前期、後期の各学期末に全学生を対象に「授業アンケート」を実施している。「学びの振り返りシート」と「授業改善のためのアンケート」の二部構成となっており、学生が自ら得た学力を確認するデータとなるとともに、教員にとっては学生の要望を受けて自ら授業の内容や方式を改善するための情報源ともなり、毎年６月初旬に入力する「教員活動データベース」においても、当該アンケートの結果に基づいて行ったその年次の授業改善を記入する項目が設定されている。

本学部では、個々の教員が改善に取り組むだけでなく、定例ＦＤ研修会においてこのアンケート結果を活用し、授業改善のための議論を行う素材としてきた。それによって、学部が組織的に教育効果を高めることを目指している。

学生の「授業アンケート」に基づく授業改善にあたっては、基本的に従来の方法を踏襲することで資料の継続性を維持し、また学生の自由な意見・感想の表明の機会とすることに努めた。前年度から紙媒体に代わり UNIPA を通した Web 入力となり、本年度は全面的にスマートフォンからの入力も可能となった。授業中に実施し、回収する紙媒体のアンケートに比し Web 入力移行後は回答率が大幅に低下したが、スマホ入力により改善が期待された。

今回の分析にあたっては、「授業改善のためのアンケート」を主な対象とし、同時に学生自身への情報提供である「学びの振り返りシート」の「あなたの学びに関する項目」も参考として用いた。

②　質問項目

「学びの振り返りシート」は、１．「管理項目」、Ⅱ．「あなたの学びに関する項目」、Ⅲ．「４つの力に関する項目①」、Ⅳ．「４つの力に関する項目②」からなり、「授業改善のためのアンケート」は、Ⅴ．「教育改善の項目」、Ⅵ．「学部付加項目／教員付加項目」、Ⅶ．「授業改善に関する記述欄」からなる。このうちⅤ．「教育改善の項目」は、学生の視点から授業をよりよくするための改善項目を項目リストから選択することになっている。Ⅵ．「学部付加項目／教員付加項目」は、それぞれ各学部・各教員単位で設問を追加することが可能なカテゴリーであるが、本年度は学部としての付加項目は特に設定しなかった。Ⅶ．「授業改善に関する記述欄」は、「先生に続けてほしいと思うこと」「自分が先生だったらこうしたいと思うこと」をそれぞれ自由に記述する項目となっている。この記述欄に関しては、学部から指定がある場合はそれに従うことになっているが、本年度は特に指定していない。

③　分析対象科目

全学統一で実施される授業アンケートであるが、対象とする授業科目の選択は学部の判断に委ねられている。本学部では、基本的に通常の講義科目は全て対象としつつ、以下の原

則を定め、実施してきた。

1）専任教員および特任教員の担当する科目は原則として実施対象とするが、非常勤講師による授業科目は実施対象としない。それゆえに、集中講義についても実施しない。

2）語学関係科目・演習科目は実施対象としない。

3）リレー講義（文化学科の各地域研究総論、法律経済学科の基礎総合科目）についても実施対象とする。

4）資格科目の講義科目は実施対象としない。

5）登録受講生数が３人未満の授業科目は実施しない。

④　分析結果の取り扱い

アンケートが Web 入力になるとともに、アンケート結果についても各教員がＵＮＩＰＡを通して確認することが可能になった。学生の意見・感想が迅速かつ確実に伝えられることにより、各教員が担当する翌年度以降の授業改善に資することになっていると考える。

期間： 2018/07/17（火） 00:00～2018/07/30（月） 23:59

対象人(延べ数)： 5961人 回答人(延べ数)： 1788人 回答率 30.0%

2018前期授業アンケート Review of STUDY in the 1st semester of 2018

この調査の目的は、学生が自らの学びを振り返り改善できるように、学びの履歴を提供すること、そして大学が教育を改善するための情報を得ることです。

以下の設問には、すべて、授業だけではなく、授業外学習も含めて、回答してください。

The purposes of this survey are 1) to offer students a record of progress in study so that they will be able to look back and improve own study, and 2) to collect information for the university to improve education.

学びの振り返りシート Review of Your Study

Ⅰ　あなたの学びに関する項目 Items on Your Study

以下の項目について当てはまると思う数字を選んでください。
Please select the number which you think most applicable to each statement.

1　総合的に判断して、この授業に満足できた。The class was satisfactory generally.　（必須）	比率	人数	4.1点
あてはまらない Not at all applicable	3%	46人	
あまりあてはまらない Not applicable	5%	84人	
どちらともいえない Neutral	12%	215人	
ややあてはまる Somewhat applicable	42%	756人	
あてはまる Applicable	38%	687人	

2　授業内外の学習に取り組むために、シラバスを活用した。I used the syllabus to tackle the study in and out of class.（必須）	比率	人数	3.1点
あてはまらない Not at all applicable	19%	334人	
あまりあてはまらない Not applicable	18%	324人	
どちらともいえない Neutral	19%	332人	
ややあてはまる Somewhat applicable	27%	474人	
あてはまる Applicable	18%	324人	

3　この授業の内容について理解できた。I was able to understand the contents of the course.（必須）	比率	人数	4.0点
あてはまらない Not at all applicable	2%	36人	
あまりあてはまらない Not applicable	4%	79人	
どちらともいえない Neutral	12%	215人	
ややあてはまる Somewhat applicable	54%	959人	
あてはまる Applicable	28%	499人	

4　新しい知識・考え方・技術などが獲得できた。New knowledge、 thoughts and techniques were acquired.（必須）	比率	人数	4.2点
あてはまらない Not at all applicable	2%	31人	
あまりあてはまらない Not applicable	3%	58人	
どちらともいえない Neutral	9%	163人	
ややあてはまる Somewhat applicable	45%	811人	
あてはまる Applicable	41%	725人	

5　この授業の受講によって、学業への興味・関心（意欲）が高まった。This course heightened your interest and desire for study.（必須）	比率	人数	4.0点
あてはまらない Not at all applicable	3%	46人	
あまりあてはまらない Not applicable	6%	101人	
どちらともいえない Neutral	13%	240人	
ややあてはまる Somewhat applicable	46%	814人	
あてはまる Applicable	33%	587人	

6　この授業で学んだことや考え方について、意識するようにしたり実際に試してみたりした。I tried to think and practice what I have learned in this course.（必須）

	比率	人数	3.5点
あてはまらない Not at all applicable	7%	126人	
あまりあてはまらない Not applicable	14%	242人	
どちらともいえない Neutral	25%	443人	
ややあてはまる Somewhat applicable	35%	634人	
あてはまる Applicable	19%	343人	

7　学びを深めるために、調べたり尋ねたりした。In order to deepen the study、I did research and questioned.（必須）

	比率	人数	3.4点
あてはまらない Not at all applicable	9%	167人	
あまりあてはまらない Not applicable	14%	247人	
どちらともいえない Neutral	21%	373人	
ややあてはまる Somewhat applicable	35%	620人	
あてはまる Applicable	21%	381人	

8　授業１回当たりの授業外学習（予習・復習・課題や試験のための学習・関連する読書や活動など）は何時間でしたか。How long did you study for each class(preparation、review、assignment、report)?（必須）

	比率	人数	1.8点
３０分未満 Almost nothing	50%	895人	
３０分～１時間未満 About 30 minutes	26%	472人	
１時間～２時間未満 1 to 2 hours	16%	278人	
２時間～４時間未満 2 to 4 hour	6%	112人	
４時間以上 Over 4 hours	2%	31人	

9　この授業を何回欠席しましたか。How many times were you absent from the class？（必須）

	比率	人数	1.8点
０回 0 time	54%	966人	
１回 1 time	24%	430人	
２回 2 times	13%	226人	
３～４回 3 to 4 times	8%	139人	
５回以上 Over 5 times	2%	27人	

｜｜　地域に関する学びの項目 Concerning your study on Mie

10　この授業の受講によって、三重県や地域への興味・関心が高まった。This course has increased your interest in issues related to Mie.（地域のことを扱わなかった授業では、「該当なし」を選び、扱っていた授業では「あてはまらない」～「あてはまる」を選んでください）(Please select the "The course isn't applicable to this Q" if this class is irrelevant to Mie).（必須）

	比率	人数	1.2点
該当なしThe course isn't applicable to this Q	54%	962人	
あてはまらない Not at all applicable	7%	122人	
あまりあてはまらない Not applicable	11%	200人	
ややあてはまる Somewhat applicable	20%	350人	
あてはまる Applicable	9%	154人	

｜｜｜　４つの力に関する項目① Items on Four Key Abilities ①

以下の項目について当てはまると思う数字を選んでください。（４つの力は,大学生としての活動のすべてを通して身につけるものです。また、各授業においても、４つの力の重点度には軽重がありますが、４つの力のすべてに回答してください。）Please select the number which you think most applicable to each statement.(The four Key Abilities are acquired through all activities as a university student including out of class study. Please respond to all the four key abilities.)

11　この授業を通して、「感じる力」が成長したと思う。My 'Ability to Empathize' has grown through this course.（必須）

	比率	人数	2.2点
全く成長しなかった Not at all grew	8%	149人	
わずかながら成長した Grew slightly	19%	340人	
少し成長した Grew a little	31%	549人	
ある程度成長した Grew to some extent	29%	516人	
かなり成長した Grew considerably	13%	234人	

12　この授業を通して、「考える力」が成長したと思う。My 'Ability to Think' has grown through this course.（必須）

	比率	人数	2.5点
全く成長しなかった Not at all grew	4%	66人	
	14%	245人	

	比率	人数	
わずかながら成長した Grew slightly			
少し成長した Grew a little	28%	499人	
ある程度成長した Grew to some extent	36%	639人	
かなり成長した Grew considerably	19%	339人	
13　この授業を通して、「コミュニケーション力」が成長したと思う。My 'Ability to Communicate' has grown through this course.（必須）	比率	人数	1.6点
全く成長しなかった Not at all grew	31%	558人	
わずかながら成長した Grew slightly	20%	349人	
少し成長した Grew a little	22%	389人	
ある程度成長した Grew to some extent	18%	322人	
かなり成長した Grew considerably	10%	170人	
14　この授業を通して、「生きる力」が成長したと思う。My 'Ability to Live' has grown through this course.（必須）	比率	人数	2.0点
全く成長しなかった Not at all grew	10%	185人	
わずかながら成長した Grew slightly	23%	413人	
少し成長した Grew a little	29%	524人	
ある程度成長した Grew to some extent	27%	485人	
かなり成長した Grew considerably	10%	181人	

Ⅰ Ⅴ　４つの力に関する項目② Items on Four Key Abilities ②

以下の「4つの力の構成要素」の観点について、この授業を通して成長したと思えるものを選んでください。なお、いくつ選んでもかまいません。Among the components of the four key abilities shown below please select those you feel grew through this course.

感じる力 The Ability to Empathize	人数
15.感性 Sensitivity	571人
16.共感 Empathy	351人
17.倫理観 Ethical view	486人
18.モチベーション Motivation	331人
19.主体的学習力 Independent learning	543人
20.心身の健康に対する意識 Awareness of health	102人
考える力 The Ability to Think	**人数**
21.幅広い教養 Broad education	783人
22.専門知識・技術 Expert knowledge & skill	728人
23.論理的思考力 Logical mind	480人
24.批判的思考力 Critical mind	400人
25.課題探求力 Spirit of inquiry	418人
26.問題解決力 Problem-solving ability	273人
コミュニケーション力 The Ability to Communicate	**人数**
27.情報受発信力Ability to use information wisely	407人
28.討論・対話力 Ability to discuss	315人
29.指導力・協調性 Leadership & cooperation	149人
30.社会人としての態度 Social maturity	305人
31.実践外国語力Foreign language practical ability	82人

（以下、「授業改善のためのアンケート」です。）
Questionnaires on Improving the Quality of Education are as follows

授業改善のためのアンケート Improve the Quality of Education

Ⅴ　教育改善の項目 Items for the Improvement of Education

この授業をもっとよくするためには、どのような点を改善すればいいと考えますか。以下の項目から選んでください。なお、いくつ選んでもかまいません。 In order to make this course better what do you think should be improved?
Please select from Items 32~50 below. You may select as many as you Method to answer this question is the same as Ⅳ.

授業の概要の説明（口頭、シラバスなどによる）Course Description(oral and by syllabus)	人数
授業目的の説明Objectives of the course	100人
授業内容の説明Course planning&contents	162人
評価方法Methods and criteria of evaluation	107人
教室内で使用する教材Teaching Materials in Class	人数
35.授業内で提示される資料 Materials presented	187人
36.配布資料WebやMoodle Distributed materials	122人
教員の行動(話し方、わかりやしい説明、発展的な内容の説明、学習内容の活用の説明、不謹慎行動への対処など)Behavior of the instructor（including Speech(easy listening comprehension),Explanation easy to understand,Explanation of contents in development,Explanation of practical application,Actions toward indiscreet students' behaviors）	人数
話し方Speech(easy listening comprehension)	119人
わかりやすい説明Explanation easy to understand	192人
発展的内容Explanation of contents in development	63人
学習内容の活用Explanation of practical application	69人
不謹慎行動への対処toward indiscreet behaviors	52人
授業における学生参加の機会Opportunities for Students' Participation in class	人数
学生に考えさせる工夫Means to make us to think	103人
質問の機会To ask questions in class	77人
学生との対話の機会To discuss with each other	98人
考えを深める機会To deepen mutual understandings	124人
補足（グループ活動の実施や支援など） Note:Opportunities among students to mutually dig problems deeply(group works and support for them)	
授業外学習のための支援Support for Off Class Learning	人数
自学勉強情報提供Information on self-study	80人
授業外での課題や宿題Subjects for off-class study	51人
学習に対する助言や補足 Advising for learning	103人
質問や課題への適切な対応 Responses to questions	43人
Moodleや電子メール等の使用Use of Moodle or email	54人
補足:参考図書・参考資料等も含む Note:inc.reference book & materials	
その他教員から指定のある項目	人数
教員の指定項目Items specified by the Instructor	7人

Ⅴ｜　授業改善に関する記述欄Further description space for improvement

それぞれ240文字以内で記入してください。Please describe within 240 characters for each question below.

※Please follow instruction from the faculty, if any

52.先生に続けてほしいと思うこと。What you want the instructor to continue

53.自分が先生だったらこうしたいと思うこと。What you want to do if you were the instructor

		【2018年度前期・文化学科】				【2018年度前期・法律経済学科】		
		対象者数(A)	回答者数(B)	(B)/(A)[%]		対象者数(A)	回答者数(B)	(B)/(A)[%]
		2,766	1,049	37.92%		5,495	1,145	20.84%
設問1	総合的に判断して、この授業に満足できた。	比　率	人　数	4.20点		比　率	人　数	3.98点
	あてはまらない(1点)	1.72%	18			3.76%	43	
	あまりあてはまらない(2点)	3.62%	38			5.76%	66	
	どちらともいえない(3点)	9.53%	100			15.02%	172	
	ややあてはまる(4点)	42.80%	449			39.83%	456	
	あてはまる(5点)	42.33%	444			35.63%	408	
設問2	授業内外の学習に取り組むために、シラバスを活用した。	比　率	人　数	3.15点		比　率	人　数	2.95点
	あてはまらない(1点)	16.59%	174			22.62%	259	
	あまりあてはまらない(2点)	17.92%	188			18.69%	214	
	どちらともいえない(3点)	19.07%	200			17.12%	196	
	ややあてはまる(4点)	26.79%	281			24.45%	280	
	あてはまる(5点)	19.64%	206			17.12%	196	
設問3	この授業の内容について理解できた。	比　率	人　数	4.11点		比　率	人　数	3.90点
	あてはまらない(1点)	1.05%	11			3.23%	37	
	あまりあてはまらない(2点)	4.00%	42			4.98%	57	
	どちらともいえない(3点)	9.63%	101			15.81%	181	
	ややあてはまる(4点)	53.86%	565			50.57%	579	
	あてはまる(5点)	31.46%	330			25.41%	291	
設問4	新しい知識・考え方・技術などが獲得できた。	比　率	人　数	4.28点		比　率	人　数	4.15点
	あてはまらない(1点)	0.95%	10			2.71%	31	
	あまりあてはまらない(2点)	2.38%	25			3.58%	41	
	どちらともいえない(3点)	7.53%	79			10.13%	116	
	ややあてはまる(4点)	46.33%	486			43.14%	494	
	あてはまる(5点)	42.80%	449			40.44%	463	
設問5	この授業の受講によって、学業への興味・関心(意欲)が高まった。	比　率	人　数	4.09点		比　率	人　数	3.92点
	あてはまらない(1点)	1.53%	16			4.10%	47	
	あまりあてはまらない(2点)	4.58%	48			5.94%	68	
	どちらともいえない(3点)	12.01%	126			16.16%	185	
	ややあてはまる(4点)	47.00%	493			40.96%	469	
	あてはまる(5点)	34.89%	366			32.84%	376	
設問6	この授業で学んだことや考え方について、意識するようにしたり実際に試してみたりした。	比　率	人　数	3.60点		比　率	人　数	3.32点
	あてはまらない(1点)	5.91%	62			8.82%	101	
	あまりあてはまらない(2点)	11.44%	120			15.90%	182	
	どちらともいえない(3点)	21.64%	227			27.07%	310	
	ややあてはまる(4点)	38.89%	408			30.74%	352	
	あてはまる(5点)	22.12%	232			17.47%	200	
設問7	学びを深めるために、調べたり尋ねたりした。	比　率	人　数	3.61点		比　率	人　数	3.25点
	あてはまらない(1点)	7.24%	76			12.05%	138	
	あまりあてはまらない(2点)	11.92%	125			16.77%	192	
	どちらともいえない(3点)	18.97%	199			22.27%	255	
	ややあてはまる(4点)	36.51%	383			32.14%	368	
	あてはまる(5点)	25.36%	266			16.77%	192	
設問8	授業1回当たりの授業外学習(予習・復習・課題や試験のための学習・関連する読書や活動など)は何時間でしたか。	比　率	人　数	1.96点		比　率	人　数	1.72点
	30分未満(1点)	44.71%	469			54.85%	628	
	30分～1時間未満(2点)	26.79%	281			26.99%	309	
	1時間～2時間未満(3点)	18.49%	194			12.49%	143	
	2時間～4時間未満(4点)	8.29%	87			3.14%	36	
	4時間以上(5点)	1.72%	18			2.53%	29	
設問9	この授業を何回欠席しましたか。	比　率	人　数	1.78点		比　率	人　数	1.85点
	0回(1点)	53.86%	565			53.62%	614	
	1回(2点)	24.12%	253			21.05%	241	
	2回(3点)	13.54%	142			14.15%	162	
	3～4回(4点)	7.53%	79			9.08%	104	
	5回以上(5点)	0.95%	10			2.10%	24	
設問10	この授業を通して、「感じる力」が成長したと思う。	比　率	人　数	1.29点		比　率	人　数	1.53点
	全く成長しなかった(0点)	53.10%	557			37.82%	433	
	わずかながら成長した(1点)	6.01%	63			11.97%	137	
	少し成長した(2点)	10.10%	106			18.08%	207	
	ある程度成長した(3点)	20.40%	214			22.71%	260	
	かなり成長した(4点)	10.39%	109			9.26%	106	
設問11	この授業を通して、「考える力」が成長したと思う。	比　率	人　数	2.37点		比　率	人　数	2.20点
	全く成長しなかった(0点)	5.72%	60			9.34%	107	
	わずかながら成長した(1点)	16.11%	169			18.95%	217	
	少し成長した(2点)	29.17%	306			29.52%	338	
	ある程度成長した(3点)	33.65%	353			26.55%	304	
	かなり成長した(4点)	15.35%	161			15.63%	179	

設問12	この授業を通して、「コミュニケーション力」が成長したと思う。	比　率	人　数	2.65点		比　率	人　数	2.05点
	全く成長しなかった（0点）	2.48%	26			13.89%	159	
	わずかながら成長した（1点）	11.44%	120			19.48%	223	
	少し成長した（2点）	26.88%	282			27.25%	312	
	ある程度成長した（3点）	36.99%	388			26.99%	309	
	かなり成長した（4点）	22.21%	233			12.40%	142	
設問13	この授業を通して、「生きる力」が成長したと思う。	比　率	人　数	1.79点		比　率	人　数	1.47点
	全く成長しなかった（0点）	22.69%	238			31.88%	365	
	わずかながら成長した（1点）	19.26%	202			20.61%	236	
	少し成長した（2点）	22.21%	233			23.58%	270	
	ある程度成長した（3点）	23.26%	244			16.42%	188	
	かなり成長した（4点）	11.44%	120			7.51%	86	
設問14	「感じる力」の観点のうち，この授業を通して成長したと思えるものを選んでください。		人　数				人　数	
	14.感性		265				221	
	15.共感		87				176	
	16.倫理観		235				259	
	17.モチベーション		297				296	
	18.主体的学習力		312				320	
	19.心身の健康に対する意識		118				86	
設問15	「考える力」の観点のうち，この授業を通して成長したと思えるものを選んでください。		人　数				人　数	
	20.幅広い教養		385				369	
	21.専門知識・技術		234				294	
	22.論理的思考力		263				339	
	23.批判的思考力		206				218	
	24.課題探求力		346				305	
	25.問題解決力		53				122	
設問16	「コミュニケーション力」の観点のうち，この授業を通して成長したと思えるものを選んでください。		人　数				人　数	
	26.情報受発信力		483				395	
	27.討論・対話力		400				389	
	28.指導力・協調性		298				204	
	29.社会人としての態度		260				219	
	30.実践外国語力		269				155	
	この授業をもっとよくするためには、どのような点を改善すればいいと考えますか。		人　数				人　数	
設問17	授業の概要の説明（口頭、シラバスなどによる）							
	31.授業の目的・到達目標の説明		0				47	
	32.授業全体の計画、学習内容の説明		259				186	
	33.成績評価の方法、評価基準の説明		256				91	
設問18	教室内で使用する教材		人　数				人　数	
	34.授業内で提示される資料（板書や投影資料など）		167				201	
	35.配布資料・Web資料など（Moodleも含む）		66				50	
設問19	教員の行動		人　数				人　数	
	36.話し方（聞き取りやすさなど）		48				99	
	37.わかりやすい説明		80				140	
	38.発展的な内容の説明		47				76	
	39.学習内容の具体的な活用方法の説明		0				20	
	40.私語/遅刻/睡眠/携帯ﾒｰﾙなど不謹慎な行動への対処		98				108	
設問20	学生参加の機会		人　数				人　数	
	41.学生自身に考えさせる工夫		0				39	
	42.質問の機会		51				87	
	43.学生との対話の機会		93				121	
	44.学生同士で考えを深め合う場や機会の提供や支援		33				55	
			人　数				人　数	
設問21	授業外学習のための支援							
	45.自学自習のための教材/資材等の情報		23				46	
	46.授業時間外での課題（宿題も含む）		0				7	
	47.学習に対する助言や補足		51				83	
	48.質問や課題への適切な対応		46				37	
	49.Moodleや電子ﾒｰﾙなどの使用		64				54	
設問22	その他教員から指定のある項目		人　数				人　数	
	50.（教員が指定する項目）		0				0	

期間：2019/01/21（月） 00:00～2019/02/03（日） 23:59

対象人(延べ数)：5633人 回答人(延べ数)：1169人 回答率 20.8%

2018後期授業アンケート Review of STUDY in the 2nd semester of 2018

この調査の目的は、学生が自らの学びを振り返り改善できるように、学びの履歴を提供すること、そして大学が教育を改善するための情報を得ることです。

以下の設問には、すべて、授業だけではなく、授業外学習も含めて、回答してください。

The purposes of this survey are 1) to offer students a record of progress in study so that they will be able to look back and improve own study, and 2) to collect information for the university to improve education.

学びの振り返りシート Review of Your Study

Ⅰ　あなたの学びに関する項目 Items on Your Study

以下の項目について当てはまると思う数字を選んでください。
Please select the number which you think most applicable to each statement.

1　総合的に判断して、この授業に満足できた。The class was satisfactory generally.（必須）	比率	人数	4.2点
あてはまらない Not at all applicable	1%	14人	
あまりあてはまらない Not applicable	4%	50人	
どちらともいえない Neutral	11%	127人	
ややあてはまる Somewhat applicable	43%	502人	
あてはまる Applicable	41%	476人	

2　授業内外の学習に取り組むために、シラバスを活用した。I used the syllabus to tackle the study in and out of class.（必須）	比率	人数	3.1点
あてはまらない Not at all applicable	18%	213人	
あまりあてはまらない Not applicable	20%	229人	
どちらともいえない Neutral	17%	194人	
ややあてはまる Somewhat applicable	26%	302人	
あてはまる Applicable	20%	231人	

3　この授業の内容について理解できた。I was able to understand the contents of the course.（必須）	比率	人数	4.1点
あてはまらない Not at all applicable	2%	18人	
あまりあてはまらない Not applicable	4%	47人	
どちらともいえない Neutral	12%	136人	
ややあてはまる Somewhat applicable	53%	618人	
あてはまる Applicable	30%	350人	

4　新しい知識・考え方・技術などが獲得できた。New knowledge、 thoughts and techniques were acquired.（必須）	比率	人数	4.3点
あてはまらない Not at all applicable	1%	9人	
あまりあてはまらない Not applicable	3%	36人	
どちらともいえない Neutral	9%	102人	
ややあてはまる Somewhat applicable	45%	527人	
あてはまる Applicable	42%	495人	

5　この授業の受講によって、学業への興味・関心（意欲）が高まった。This course heightened your interest and desire for study.（必須）	比率	人数	4.1点
あてはまらない Not at all applicable	2%	19人	
あまりあてはまらない Not applicable	4%	49人	
どちらともいえない Neutral	14%	161人	
ややあてはまる Somewhat applicable	44%	510人	
あてはまる Applicable	37%	430人	

6　この授業で学んだことや考え方について、意識するようにしたり実際に試してみたりした。I tried to think and practice what I have learned in this course.（必須）	比率	人数	3.5点
あてはまらない Not at all applicable	6%	73人	
あまりあてはまらない Not applicable	13%	153人	
どちらともいえない Neutral	23%	266人	
ややあてはまる Somewhat applicable	36%	423人	
あてはまる Applicable	22%	254人	

7　学びを深めるために、調べたり尋ねたりした。In order to deepen the study、I did research and questioned.（必須）	比率	人数	3.5点
あてはまらない Not at all applicable	7%	80人	
あまりあてはまらない Not applicable	15%	181人	
どちらともいえない Neutral	19%	217人	
ややあてはまる Somewhat applicable	38%	440人	
あてはまる Applicable	21%	251人	

8　授業１回当たりの授業外学習（予習・復習・課題や試験のための学習・関連する読書や活動など）は何時間でしたか。How long did you study for each class(preparation、review、assignment、report)?（必須）	比率	人数	1.9点
３０分未満 Almost nothing	49%	569人	
３０分～１時間未満 About 30 minutes	26%	305人	
１時間～２時間未満 1 to 2 hours	16%	189人	
２時間～４時間未満 2 to 4 hour	7%	81人	
４時間以上 Over 4 hours	2%	25人	

9　この授業を何回欠席しましたか。How many times were you absent from the class ?（必須）	比率	人数	2.0点
０回 0 time	44%	517人	
１回 1 time	24%	286人	
２回 2 times	18%	216人	
３～４回 3 to 4 times	10%	122人	
５回以上 Over 5 times	2%	28人	

｜｜　地域に関する学びの項目（関連がなかった授業では回答しないでください）
Concerning your study on Mie (Please do not answer if this class is irrelevant to Mie)

10　この授業の受講によって、三重県や地域への興味・関心が高まった。This course has increased your interest in issues related to Mie.	比率	人数	2.6点
あてはまらない Not at all applicable	38%	251人	
あまりあてはまらない Not applicable	10%	65人	
どちらともいえない Neutral	18%	116人	
ややあてはまる Somewhat applicable	23%	151人	
あてはまる Applicable	11%	70人	

｜｜｜　４つの力に関する項目① Items on Four Key Abilities ①

以下の項目について当てはまると思う数字を選んでください。（４つの力は,大学生としての活動のすべてを通して身につけるものです。また、各授業においても、４つの力の重点度には軽重がありますが、４つの力のすべてに回答してください。）Please select the number which you think most applicable to each statement.(The four Key Abilities are acquired through all activities as a university student including out of class study. Please respond to all the four key abilities.)

11　この授業を通して、「感じる力」が成長したと思う。My 'Ability to Empathize' has grown through this course.（必須）	比率	人数	2.2点
全く成長しなかった Not at all grew	7%	83人	
わずかながら成長した Grew slightly	20%	235人	
少し成長した Grew a little	28%	332人	
ある程度成長した Grew to some extent	31%	359人	
かなり成長した Grew considerably	14%	160人	

12　この授業を通して、「考える力」が成長したと思う。My 'Ability to Think' has grown through this course.（必須）	比率	人数	2.6点
全く成長しなかった Not at all grew	3%	30人	
わずかながら成長した Grew slightly	15%	173人	
少し成長した Grew a little	22%	262人	
	39%	457人	

	比率	人数	
ある程度成長した Grew to some extent			
かなり成長した Grew considerably	21%	247人	
13　この授業を通して、「コミュニケーション力」が成長したと思う。My 'Ability to Communicate' has grown through this course.（必須）			1.6点
全く成長しなかった Not at all grew	31%	368人	
わずかながら成長した Grew slightly	19%	218人	
少し成長した Grew a little	21%	246人	
ある程度成長した Grew to some extent	20%	233人	
かなり成長した Grew considerably	9%	104人	
14　この授業を通して、「生きる力」が成長したと思う。My 'Ability to Live' has grown through this course.（必須）			2.0点
全く成長しなかった Not at all grew	13%	150人	
わずかながら成長した Grew slightly	22%	257人	
少し成長した Grew a little	28%	322人	
ある程度成長した Grew to some extent	25%	292人	
かなり成長した Grew considerably	13%	148人	

Ⅰ V　４つの力に関する項目② Items on Four Key Abilities ②

以下の「4つの力の構成要素」の観点について、この授業を通して成長したと思えるものを選んでください。なお、いくつ選んでもかまいません。Among the components of the four key abilities shown below please select those you feel grew through this course.

	人数
感じる力 The Ability to Empathize	
15.感性 Sensitivity	347人
16.共感 Empathy	172人
17.倫理観 Ethical view	323人
18.モチベーション Motivation	210人
19.主体的学習力 Independent learning	349人
20.心身の健康に対する意識 Awareness of health	21人
考える力 The Ability to Think	
21.幅広い教養 Broad education	452人
22.専門知識・技術 Expert knowledge & skill	518人
23.論理的思考力 Logical mind	324人
24.批判的思考力 Critical mind	243人
25.課題探求力 Spirit of inquiry	229人
26.問題解決力 Problem-solving ability	159人
コミュニケーション力 The Ability to Communicate	
27.情報受発信力Ability to use information wisely	256人
28.討論・対話力 Ability to discuss	135人
29.指導力・協調性 Leadership & cooperation	88人
30.社会人としての態度 Social maturity	154人
31.実践外国語力Foreign language practical ability	44人

（以下、「授業改善のためのアンケート」です。）
Questionnaires on Improving the Quality of Education are as follows

授業改善のためのアンケート Improve the Quality of Education

Ⅴ　教育改善の項目 Items for the Improvement of Education

この授業をもっとよくするためには、どのような点を改善すればいいと考えますか。以下の項目から選んでください。なお、いくつ選んでもかまいません。 In order to make this course better what do you think should be improved?
Please select from Items 32~50 below. You may select as many as you Method to answer this question is the same as IV.

	人数
授業の概要の説明（口頭、シラバスなどによる）Course Description(oral and by syllabus)	

授業目的の説明Objectives of the course	45人
授業内容の説明Course planning&contents	107人
評価方法Methods and criteria of evaluation	62人
教室内で使用する教材Teaching Materials in Class	人数
35.授業内で提示される資料 Materials presented	112人
36.配布資料WebやMoodle Distributed materials	71人
教員の行動(話し方、わかりやすい説明、発展的な内容の説明、学習内容の活用の説明、不謹慎行動への対処など)Behavior of the instructor（including Speech(easy listening comprehension),Explanation easy to understand,Explanation of contents in development,Explanation of practical application,Actions toward indiscreet students' behaviors）	人数
話し方Speech(easy listening comprehension)	89人
わかりやすい説明Explanation easy to understand	112人
発展的内容Explanation of contents in development	40人
学習内容の活用Explanation of practical application	45人
不謹慎行動への対処toward indiscreet behaviors	32人
授業における学生参加の機会Opportunities for Students' Participation in class	人数
学生に考えさせる工夫Means to make us to think	67人
質問の機会To ask questions in class	44人
学生との対話の機会To discuss with each other	55人
考えを深める機会To deepen mutual understandings	61人
補足（グループ活動の実施や支援など） Note:Opportunities among students to mutually dig problems deeply(group works and support for them)	
授業外学習のための支援Support for Off Class Learning	人数
自学勉強情報提供Information on self-study	49人
授業外での課題や宿題Subjects for off-class study	33人
学習に対する助言や補足 Advising for learning	68人
質問や課題への適切な対応 Responses to questions	39人
Moodleや電子メール等の使用Use of Moodle or email	39人
補足:参考図書・参考資料等も含む Note:inc.reference book & materials	
その他教員から指定のある項目	人数
教員の指定項目Items specified by the Instructor	2人

Ⅵ　授業改善に関する記述欄Further description space for improvement

それぞれ240文字以内で記入してください。Please describe within 240 characters for each question below.

※Please follow instruction from the faculty, if any

52.先生に続けてほしいと思うこと。What you want the instructor to continue

53.自分が先生だったらこうしたいと思うこと。What you want to do if you were the instructor

		【2018年度後期・文化学科】				【2018年度後期・法律経済学科】		
		対象者数(A)	回答者数(B)	(B)/(A)[%]		対象者数(A)	回答者数(B)	(B)/(A)[%]
		2,506	749	29.89%		2514	389	15.47%
設問1	総合的に判断して、この授業に満足できた。	比　率	人　数	4.23点		比　率	人　数	4.04点
	あてはまらない(1点)	0.80%	6			2.06%	8	
	あまりあてはまらない(2点)	3.20%	24			6.43%	25	
	どちらともいえない(3点)	9.75%	73			13.37%	52	
	ややあてはまる(4点)	44.33%	332			42.16%	164	
	あてはまる(5点)	41.92%	314			35.99%	140	
設問2	授業内外の学習に取り組むために、シラバスを活用した。	比　率	人　数	3.16点		比　率	人　数	2.97点
	あてはまらない(1点)	14.69%	110			23.91%	93	
	あまりあてはまらない(2点)	21.90%	164			15.42%	60	
	どちらともいえない(3点)	16.69%	125			17.22%	67	
	ややあてはまる(4点)	26.03%	195			26.74%	104	
	あてはまる(5点)	20.69%	155			16.71%	65	
設問3	この授業の内容について理解できた。	比　率	人　数	4.11点		比　率	人　数	3.94点
	あてはまらない(1点)	1.34%	10			2.06%	8	
	あまりあてはまらない(2点)	3.07%	23			6.17%	24	
	どちらともいえない(3点)	10.28%	77			14.14%	55	
	ややあてはまる(4点)	54.21%	406			51.16%	199	
	あてはまる(5点)	31.11%	233			26.48%	103	
設問4	新しい知識・考え方・技術などが獲得できた。	比　率	人　数	4.27点		比　率	人　数	4.18点
	あてはまらない(1点)	0.53%	4			1.29%	5	
	あまりあてはまらない(2点)	2.94%	22			3.60%	14	
	どちらともいえない(3点)	7.61%	57			11.57%	45	
	ややあてはまる(4点)	46.86%	351			42.67%	166	
	あてはまる(5点)	42.06%	315			40.87%	159	
設問5	この授業の受講によって、学業への興味・関心(意欲)が高まった。	比　率	人　数	4.17点		比　率	人　数	3.92点
	あてはまらない(1点)	1.20%	9			2.57%	10	
	あまりあてはまらない(2点)	3.34%	25			5.91%	23	
	どちらともいえない(3点)	11.35%	85			19.28%	75	
	ややあてはまる(4点)	45.93%	344			41.13%	160	
	あてはまる(5点)	38.18%	286			31.11%	121	
設問6	この授業で学んだことや考え方について、意識するようにしたり実際に試してみたりした。	比　率	人　数	3.55点		比　率	人　数	3.47点
	あてはまらない(1点)	5.87%	44			7.46%	29	
	あまりあてはまらない(2点)	13.22%	99			13.37%	52	
	どちらともいえない(3点)	22.56%	169			23.65%	92	
	ややあてはまる(4点)	37.12%	278			35.99%	140	
	あてはまる(5点)	21.23%	159			19.54%	76	
設問7	学びを深めるために、調べたり尋ねたりした。	比　率	人　数	3.49点		比　率	人　数	3.48点
	あてはまらない(1点)	6.41%	48			7.97%	31	
	あまりあてはまらない(2点)	16.56%	124			14.40%	56	
	どちらともいえない(3点)	18.56%	139			19.79%	77	
	ややあてはまる(4点)	38.18%	286			37.79%	147	
	あてはまる(5点)	20.29%	152			20.05%	78	
設問8	授業1回当たりの授業外学習(予習・復習・課題や試験のための学習・関連する読書や活動など)は何時間でしたか。	比　率	人　数	1.83点		比　率	人　数	1.87点
	30分未満(1点)	51.00%	382			46.02%	179	
	30分～1時間未満(2点)	24.83%	186			30.59%	119	
	1時間～2時間未満(3点)	15.62%	117			16.20%	63	
	2時間～4時間未満(4点)	6.94%	52			5.14%	20	
	4時間以上(5点)	1.60%	12			2.06%	8	
設問9	この授業を何回欠席しましたか。	比　率	人　数	1.97点		比　率	人　数	2.16点
	0回(1点)	45.53%	341			40.62%	158	
	1回(2点)	24.03%	180			25.19%	98	
	2回(3点)	19.89%	149			16.45%	64	
	3～4回(4点)	9.35%	70			13.11%	51	
	5回以上(5点)	1.20%	9			4.63%	18	
設問10	この授業の受講によって、三重県や地域への興味・関心が高まった。	比　率	人　数	1.38点		比　率	人　数	1.49点
	あてはまらない(1点)	20.29%	152			23.91%	93	
	あまりあてはまらない(2点)	5.61%	42			5.66%	22	
	どちらともいえない(3点)	7.74%	58			14.65%	57	
	ややあてはまる(4点)	13.22%	99			11.57%	45	
	あてはまる(5点)	6.14%	46			4.63%	18	
設問11	この授業を通して、「感じる力」が成長したと思う。	比　率	人　数	2.32点		比　率	人　数	2.03点
	全く成長しなかった(0点)	5.74%	43			9.51%	37	
	わずかながら成長した(1点)	18.42%	138			24.42%	95	
	少し成長した(2点)	27.90%	209			29.82%	116	
	ある程度成長した(3点)	33.51%	251			25.96%	101	
	かなり成長した(4点)	14.42%	108			10.28%	40	

設問12	この授業を通して、「考える力」が成長したと思う。	比　率	人　数	2.63点		比　率	人　数	2.55点
	全く成長しなかった（0点）	2.80%	21			2.31%	9	
	わずかながら成長した（1点）	13.22%	99			18.51%	72	
	少し成長した（2点）	22.16%	166			22.88%	89	
	ある程度成長した（3点）	42.19%	316			34.70%	135	
	かなり成長した（4点）	19.63%	147			21.59%	84	
設問13	この授業を通して、「コミュニケーション力」が成長したと思う。	比　率	人　数	1.68点		比　率	人　数	1.25点
	全く成長しなかった（0点）	26.70%	200			41.90%	163	
	わずかながら成長した（1点）	19.09%	143			18.77%	73	
	少し成長した（2点）	22.70%	170			17.99%	70	
	ある程度成長した（3点）	22.03%	165			14.91%	58	
	かなり成長した（4点）	9.48%	71			6.43%	25	
設問14	この授業を通して、「生きる力」が成長したと思う。	比　率	人　数	2.06点		比　率	人　数	1.93点
	全く成長しなかった（0点）	11.88%	89			14.91%	58	
	わずかながら成長した（1点）	21.90%	164			22.88%	89	
	少し成長した（2点）	26.70%	200			28.79%	112	
	ある程度成長した（3点）	26.97%	202			21.34%	83	
	かなり成長した（4点）	12.55%	94			12.08%	47	
設問15	「感じる力」の観点のうち，この授業を通して成長したと思えるものを選んでください。		人　数				人　数	
	15.感性		261				77	
	16.共感		110				54	
	17.倫理観		202				115	
	18.モチベーション		135				66	
	19.主体的学習力		200				133	
	20.心身の健康に対する意識		14				6	
設問16	「考える力」の観点のうち，この授業を通して成長したと思えるものを選んでください。		人　数				人　数	
	21.幅広い教養		322				119	
	22.専門知識・技術		316				187	
	23.論理的思考力		190				122	
	24.批判的思考力		155				81	
	25.課題探求力		140				78	
	26.問題解決力		71				75	
設問17	「コミュニケーション力」の観点のうち，この授業を通して成長したと思えるものを選んでください。		人　数				人　数	
	27.情報受発信力		175				70	
	28.討論・対話力		75				45	
	29.指導力・協調性		46				37	
	30.社会人としての態度		78				68	
	31.実践外国語力		36				6	
	この授業をもっとよくするためには、どのような点を改善すればいいと考えますか。							
設問18	授業の概要の説明（口頭、シラバスなどによる）		人　数				人　数	
	32.授業の目的・到達目標の説明		28				17	
	33.授業全体の計画、学習内容の説明		60				44	
	34.成績評価の方法、評価基準の説明		26				34	
設問19	教室内で使用する教材		人　数				人　数	
	35.授業内で提示される資料（板書や投影資料など）		69				43	
	36.配布資料・Web資料など（Moodleも含む）		44				25	
設問20	教員の行動		人　数				人　数	
	37.話し方（聞き取りやすさなど）		39				49	
	38.わかりやすい説明		63				47	
	39.発展的な内容の説明		25				15	
	40.学習内容の具体的な活用方法の説明		27				17	
	41.私語/遅刻/睡眠/携帯メールなど不謹慎な行動への対処		19				11	
設問21	学生参加の機会		人　数				人　数	
	42.学生自身に考えさせる工夫		35				29	
	43.質問の機会		24				20	
	44.学生との対話の機会		32				21	
	45.学生同士で考えを深め合う場や機会の提供や支援		40				20	
設問22	授業外学習のための支援		人　数				人　数	
	46.自学自習のための教材/資材等の情報		28				20	
	47.授業時間外での課題（宿題も含む）		16				15	
	48.学習に対する助言や補足		40				28	
	49.質問や課題への適切な対応		22				16	
	50.Moodleや電子メールなどの使用		24				15	
設問23	その他教員から指定のある項目		人　数				人　数	
	51.（教員が指定する項目）		1				1	

２．分析結果

学生から回答されたアンケートに基づき、前期・後期別に文化学科・法律経済学科それぞれの集計データが作成された（別掲）。この作業については、学務チームから教務チームを通して地域人材教育開発機構の黄文哲先生（教学 IR・教育評価開発部門）および前川悠氏のご高配を得た。篤く御礼申し上げたい。

以下、この集計データに基づき、昨年度との比較をしつつ、分析コメントを付すこととする。

授業アンケートの学生の回答率は前期が文化学科 37.92%、法律経済学科 20.84%、後期は文化学科 29.89%、法律経済学科 15.47%であった。昨年度の回答率は前期 19.6%、後期 26.6%（学科別の内訳は不明）であり、特に前期は大きく改善している。ただ両学科とも前期に比し後期の回答率が悪化した点、また文化学科に比し法律経済学科の回答率が半分強に留まることは、今後の課題とすべき点である。なお、前述の通り本学部では授業アンケート対象科目を原則として専任（特任）教員の講義に限り、演習や資格科目等は除外しているものの、Web 入力のため学生の側では区別なく回答しているようである。除外科目については教員からの回答を促す指導はなされないため、当然回答率は低いが、前掲の回答率はこうした科目を全て含んだ数字となっている。この点は次年度以降に工夫が必要であるものの、人文学部の授業アンケートの回答率が極端に低い訳ではない点は、確認しておきたい。

さて、**学びの振り返りシート**の冒頭、設問１「総合的に判断して、この授業に満足できた」という問いは、いわゆる「総合的満足度」と通称されるように、学生の授業評価として最も重視される（教員側も関心の高い）項目である。昨年度は前後期とも 4.1 という数値であったが、今年度は前期が文化学科 4.2、法律経済学科 3.98、後期は文化学科 4.23、法律経済学科 4.04 であった。昨年度とほぼ等しい数値であり、4 点前後の比較的満足度の高い評価を得ていると言えよう。関連する項目としては、設問３「この授業の内容について理解できた」や設問４「新しい知識・考え方・技術などが獲得できた」、設問５「この授業の受講によって、学業への興味・関心（意欲）が高まった」も総じて４点前後であり、特に設問４は 4.2 点ほどの数値を示し、学部の授業において専門的なスキルを習得している様子を見てとれよう。この点は、設問 11～17 で問われている「四つの力」の成長の自己評価として、「考える力」の成長を認める学生が最も多く、またその内容も「専門知識・技術」（設問 16）が最多を占めている。専門課程の教育としてあるべき役割を果たしていると評価することができよう。

一方で、設問２「授業内外の学習に取り組むために、シラバスを活用した」については３点前後であり、設問６「この授業で学んだことや考え方について、意識するようにしたり実際に試してみたりした」、７「学びを深めるために、調べたり尋ねたりした」も、３点台半ばに留まる。すべての授業について取り組むのは無理だと思われるが、講義が行われる教室を離れ、現実の場で「活用」することは、意識すべき課題である。

設問８で問われた授業１回当たりの授業外学習時間は２点に満たず、実質的に概ね１時間弱であることが示されている。アンケートの冒頭でも注記がされているが、大学での単位制度は、１回あたり９０分の授業と４時間の授業外学習に対して２単位が配当されることになっており、現実との隔絶が悩ましい。だが、アンケートの実施期間が試験前であり、ま

た設問文に記されるものの、「関連する読書や活動など」を含むことについて学生たちの周知が徹底しているとは言えない。講義に比しはるかに授業外学習時間を要する演習科目についてアンケートの対象外としていることも考慮すべきであろう。学生たちの主体的学習を促すことは大事だが、前記の規定自体が現実離れしていることにも鑑み、この数字が悪用され、大学教育に弊害をもたらすことのないように注意したい。

なお授業の出欠状況（設問９）はほぼ２点台以下（すなわち、平均して欠席が１回以下）の数値であり、アンケートに回答した学生たちの真面目な出席状況が確認できる。

次に、**授業改善のためのアンケート**について検討しよう。使用教材や方式など、総じて個々の授業によるところが大きく、集計されたデータが必ずしも意味をなすとは言えない。だが、学生が求める授業概要の説明として、特に授業全体の計画、学習内容の説明が求められていること（設問 17）、教員に対する要望で「わかりやすい説明」が多いのは当然のことであるが、「私語／遅刻／睡眠／携帯メールなど不謹慎な行動への対処」を求める声が多数に上ったこと（設問 19）は、真摯な受講態度の表れと見て良い。他には、学生との対話や質問の機会など、学生参加の機会を求める意見も一定数にのぼった（設問 20）。

最後に**自由記述**の傾向を見てみよう。

教員への要望として、授業外課題を中心に、指示内容を明確にして欲しいとの声が目立ち、特に出された課題については、フィーバックを求める学生も少なくなかった。成績評価基準の明確さを求める意見や、聞き取り易い声での分かり易い説明、読み易く丁寧な板書などの要望も多い。リレー講義について、担当教員のよる授業方式や課題の難易度の違いに戸惑いを示すものもあった。一方で、教員側が話すだけの講義形式に比し、学生参加型やグループ学習の授業について前向きな反応が見られ、レスポンスペーパーの活用や Moodle 使用も好意的であった。そして、総じて「このままで良い」といった意見や教師への謝辞を記すものが目立ち、全般に授業への満足度は高いことが、自由記述からもうかがえる。

Ⅴ．教員による「授業に関するアンケート」

Ⅴ．教員による「授業に関するアンケート」

１．アンケートの概要

アンケートの目的と方法

教員による「授業に関するアンケート」は、教員が授業で使用している教材や授業で行っている工夫などについての基礎データを収集し分析することにより、次年度以降の教育内容・教育方法の改善のための資料提供を行うことを主な目的としている。

実施については、学生による授業アンケート実施と同時期に、各教員に用紙を配布し、学務に設置するボックスにて回収を行った。

①質問項目（巻末資料参照）

昨年度の項目をもとに作成した。

②調査対象科目

専任教員および特任教員が担当する人文学部専門課程（前期・後期）の講義と演習科目を対象に調査を行った。回収されたのは１５８科目（文化学科１３３科目、法律経済学科２５科目）である。

なお、リレー講義科目については、昨年度と同様、一つの科目に複数の教員からの回答が集計されている場合がある。

③アンケート結果分析の視点

前期科目と後期科目の区別はせず、人文学部全体、文化学科、法律経済学科の３区分で集計した。また昨年度と同じ質問・選択肢については、昨年度と比較し増減ポイントを示した。

２．調査結果

（１）授業で使用している教材・機器については、プリントが最も多く、例年の傾向と変わらない。項目の中で、参考書が１７年度と比べ８ポイント前後増加しているのが目に付く。また、法律経済学科では、ビデオ・DVD の使用、Moodle の使用のポイントが１７年度と比べそれぞれ１３ポイント、３６ポイントほど増加している。項目⑥（今年度の工夫）の自由記述において、多様な資料を用いたとの記述が多数あり、どのような形で講義内においてそれら教材等を使用したのか、次年度以降の個別単位での（例年６月に実施ている）FD 研修会において意見交換されてみてはどうか。

（２）取り入れている授業方法については、「学生を指名する」、「ディスカッション」が人文学部全体としては５０ポイントを超えている。個別の学科ごとで見ると、文化学科においては、「学生を指名する」、

のポイントは若干減っているが、「ディベート」、「ディスカッション」、「リアクション・ペーパー」のポイントが増加している。関連して、意欲向上、工夫に関する自由記述において、学生間における議論、意見交換の時間を講義内（演習を含む）において増やしたとの記述が複数ある。講義内でインプットとアウトプットの両面の向上を意識した講義づくりが試みられているのではないだろうか。法律経済学科については、Moodle の使用の割合が増加している。Moodle については、自由記述を見ると、両学科とも多様な手段として用いていることがわかる。教員と学生間の質疑応答、レポート等の提出用として用いていたり、学生間のコミュニケーションの場（そこでの成果物を教員に提出）として活用したりしているようである。

（３）自由記述（意欲向上、工夫）の内容については、抄録ではあるが下記に紹介しておく。内容を一瞥すると、予習と復習のサポート（予習と復習のやり方の指導）に関する記述が多いように見受けられる。予習については、宿題や課題を提示したり、次回の講義用の質問票の作成を課す、といった方法が多かった（Moodle に書き込ませ、講義前に教員に提出させるというものもあった）。復習については、リアクションペーパーの提出や小テストにより、個々の学生の理解度を確認する方法が多い。小テストについては模範答案を示したり、丁寧にコメントをつけるといった、きめ細かい指導を行っているとの記述が少なからず見受けられる。

学生には、コメントや模範答案などを熟読してもらい、予習、復習の方法を学生個人個人が自分で考え模索し、独自に学習を深めていくという、意欲的な学習につながることを期待したい。

以下、集計結果を順次示しておく。

①授業で使用している教材・機器

表Ⅴ－１　使用している教材・機器（単位：授業数、複数回答可）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	１０
人文学部 158	48 30.3%	139 87.9%	45 28.4%	45 28.4%	2 1.0%	46 29.1%	22 13.9%	12 7.0%	35 22.1%	8 5.0%
増減ポイント	+1.6	+0.6	+8.0	+0.8	+1.0	-4.0	+4.5	+0.4	+3.9	-0.5
文化学科 133	42 31.5%	117 87.9%	36 27.0%	35 26.3%	2 1.0%	38 28.5%	20 15.0%	11 8.2%	21 15.7%	6 4.5%
増減ポイント	+4.4	0	+8.4	-1.6	+1.0	-1.5	+5.7	+0.3	-2.2	-1.9
法律経済学科 25	6 24.0%	22 88.0%	9 36.0%	10 40.0%	0 0.0%	8 32.0%	2 8.0%	1 4.0%	14 56.0%	2 8.0%
増減ポイント	-10.1	+2.6	+9.2	+13.2	0.0	-11.9	-1.8	+1.6	+36.5	-0.4

注１）表中の１～１０は次の通り。１．教科書、２．プリント、３．参考書、４．ビデオ・DVD、５．OHP、６．パワーポイント、７．パソコン（６以外）、８．実物または模型、９．Moodle、１０．その他。
注２）増減は１７年度の構成比との比較で、参考までに記載した。

項目１０．「その他」の記載例
・CD（英語の朗読）／辞典／Excel／HP ファイルデータ／タブレット

②取り入れている授業方法

表Ⅴ－２　取り入れている授業方法（単位：授業数、複数回答可）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
人文学部 158	90 56.9%	38 24.0%	9 5.6%	14 8.8%	14 8.8%	84 53.1%	55 34.8%	42 26.5%	33 20.8%	31 19.6%	7 4.4%
増減ポイント	-2.8	-2.5	-1.6	+2.7	+4.4	+5.0	-0.6	+6.1	+4.8	-0.3	-0.6
文化学科 133	80 60.1%	32 24.0%	7 5.2%	12 9.0%	12 9.0%	79 59.3%	50 37.5%	36 27.0%	25 18.7%	25 18.7%	6 4.5%
増減ポイント	-5.6	-3.1	-1.2	+1.9	+6.1	+5.0	+0.4	+7.0	+2.3	-1.3	+0.2
法律経済学科 25	10 40%	6 24%	2 8.0%	2 8.0%	2 8.0%	5 20.0%	5 20.0%	6 24%	8 32.0%	6 24%	1 4.0%
増減ポイント	+1.0	-0.4	-1.8	+5.6	-1.8	-6.8	-9.3	+2.0	+17.4	+4.5	-3.3

注１）表中の１～１１は次の通り。１．学生を指名する、２．ビデオ・DVD、３．現場見学・観察、４．実習、実地調査、５．ディベート、６．ディスカッション、７．（学生による）プレゼンテーション、８．リアクション・ペーパー、９．Moodle、１０．小テスト、１１．その他。

項目１１「その他」の記載例

・辞典を使用して行う課題／中間レポート／事後学習／ピア・レビュー／実際に論文を作成する／過去の卒論・ゼミ論文／学術論文／ロールプレイ／パソコンの作業（エクセル、文献検索）／エッセー／実験

③試験・レポートの返却

表Ⅴ－３　試験・レポートの返却（単位：授業数）

	全員に返却	希望者に返却	返却しない	試験・レポートを課していない
人文学部 158	35 22.0%	33 20.8%	49 31.0%	35 22.1%
増減（ポイント）	-7.8	+8.1	-6.6	+2.5
文化学科 133	26 19.5%	33 24.8%	40 30.0%	31 23.3%
増減（ポイント）	-11.9	+8.4	-3.6	+4.7
法律経済学科 25	9 36.0%	0 0.0%	9 36.0%	4 16%
増減（ポイント）	+11.6	0.0	-15.2	-8.4

④学生の独習意欲を向上させるための工夫（抄録、類似内容（複数回答）については要約）

文化学科：

・質問票の作成を課す。/・資料を事前に配布し予習を課す。
・小テストで学習状況を確認している。/・Moodle 課題を課している。
・発表の内容に合わせて発展的資料や調査の方向を提案している。
・毎回の授業の冒頭で、簡単な課題を与えて解答させている。/・授業冒頭で内容に関わる課題を与えて15 分程度で解かせている。
・レポート課題の成果の公表、それに基づく議論。/・小テストの模範答案の紹介。/・リアクションペーパーの返答。
・グループでプロジェクトを実施している。/・グループでミニ論文の作成をしている。
・毎回の振り返り課題を課している。
・学生のプレゼンテーションをピアレビューさせている。
・毎回リーディングやコメントの課題を Moodle に提出させている。
・英語論文を自力で読めるようにサマリーシートを配付。グループワークで意見を作成させ、学生同士で考えさせる。
・遺跡や遺物のスライドを見せて理解を助けている。/・影印本、複製本の実物の回覧やコピーの配布をしている。
・大英図書館や欧米の大学図書館 HP で公開されているデジタル・コレクションを参照し、原典初版、手稿、写本の実物を画像で観察する機会を設けている。
・自ら実験を考察させ実行させている。リクルートも学生が行っている。結果を学生限定の学会に応募することも可能、と紹介している（出した学生はいなかったが）。近隣の大学や三重大で行われる講演会やワークショップのお知らせをしている。
・発音練習を個別に行う、模型等の作成。
・文芸作品の原文と訳の比較ができるプリントを配布している。
・日本人学生と留学生の協働学習、ジグソー学習法やロールプレイなどのアクティブラーニングの取入れ。
・現代の問題との接点を映像などで紹介。
・テキストの輪読とグループワークを組み合わせている。
・教材や資料を各自でアクセスできる情報と共に紹介。
・留学生が大半のため日本での受容史にも言及し、紹介した。
・批評や劇場版、映画版などを示し、多くの人がよさを共有している例を挙げ、読む気を高める。

法律経済学科：

・中間試験を定期試験以外に実施している。
・報告を割り当て、報告の準備を促している。
・小テストで定期的に学習内容の定着を図っている。
・宿題を課す。
・教材や資料などの紹介をしている。/・発展的問題を捕捉資料配付。書籍紹介。

・テーマに関する比較的読みやすい新書、書籍を紹介している。
・毎回の講義終了後に、その回の授業を受けて自分で考えたことを Moodle に書かせている。
・レポートのコメント、採点を返却。
・レポートを再三書かせ、型を身に着けさせる。
・次回プリント配付、予習のための課題を Moodle に掲載し考えを書き込ませる。
・映像の導入、現実のイメージを持てるようにする。
・個人研究発表を課し、個人指導を各５回程度、メール指導も５、６回実施。

⑤休講について

休講に対する措置

表Ⅴ－４　休講に対する措置（単位：授業数）

	補講を行った	補講に代わる措置を講じた
人文学部	１１	４７
文化学科	8	４０
法律経済学科	3	7

補講に代わる措置の例

文化学科：プリントの配布／展覧会の見学を指示（複数回答）／見学旅行の実施／グループ活動を行わせ Moodle で報告／実際の文芸作品を原文で読み、翻訳する課題を課す／資料をあらかじめ配付し、読んだ上でコメントする課題を課す

法律経済学科：文献の提示／課題提示

⑥今年度工夫したこと、改善したこと（抄録）

文化学科：

・ビデオを見せるようにした。
・史料にふり仮名を追記した。
・授業時間内のパソコンの作業を増やした。
・発表にあたり使用する資料の選択について、興味だけでなく意義も述べるよう課題に含めた。
・翻訳の助けとなる資料の提供、具体的な作品名と入手、貸し出しが可能な図書のリストアップ。
・学生の関心の高いと思われる時事問題を扱った。
・教員の講義の時間を減らし、学生間のアクティブラーニングの時間を増やした。
・受講者にドイツ人がいたので、授業の内容を日本人とドイツ人にもわかるように、要所要所でドイツ語を板書して説明を行った。
・カントのテキストを読解するのが年々困難になってきているので、わかりやすく翻訳を紹介したり、解説書、参考書をこちらで用意して、学生には勉強してもらっている。
・登録者に留学生が多かったので、日本語での読みも明示するようにした。
・学生同士でディスカッションする時間を昨年より多くした。
・学生の興味を引く教材の選択、発言しやすい雰囲気づくり。

・詩人特有の語法、廃語、稀語などを中心に、ほぼ毎回１～３語ずつ、辞典の抜粋を配布、全員で検討することを目指した。
・PBL の授業形態であるため、毎回の授業で必ず学生のグループワークおよびグループディスカッションを取り入れた。
・学生の事前学習を促進するため、またレポートの採点（各先生への配布）をしやすくするため Moodle のクラスページを作成した。
・学生の「つまずき」の把握に努め、解決手段やヒントが得られるように心掛ける。
・資料実物の閲覧や複製・影印の配付を多くした。分量を減らし解説に重点を置く。
・教材を例年より興味を惹くものにした。
・課題の量を非常に多くした。
・アクティブラーニングの要素を取り入れるよう努めた。
・配付プリントのアップデート。
・固有名詞や時代背景等の説明をより丁寧に行った。
・リアクションペーパーに授業内容を踏まえて考えさせる内容にした。
・レジュメ掲載の資料を増やし、詳しくすることで復習の助けとする。
・レポートのテーマを選択式にして興味に沿って書けるようにした。
・ディスカッションを毎回行うため、発言しやすい空気作りに簡単な討論を用意し初回はディベートさせる。
・板書を重点的に行い、学生に積極的にノートを作らせる。
・Moodle を活用し学生がお互いの進行状況をチェックできるようにした。
・板書に重点を置き、ノートライキングのスキルアップに努めた。
・量を減らして繰り返し説明する。
・パワーポイントのスライドを修正し、演習問題を一緒に考えられるように工夫した。
・英語の朗読を増やし、音声で詩の韻律を観察する機会を増やした。画像を映して全員で観察した。文献の使用料を増やした。
・扱うテーマに関する最新の研究をできるだけ分かり易く解説した。

法律経済学科：
・ベースとなるデータのアップデートに力を入れている。
・新聞プリントのコピーを特定の新聞に偏らないようにしている。
・改正が予定されているところは、改正法にも言及するようにした。
・説明をよりシンプルに。資料の増加。
・視聴覚資料を導入。
・学生の要望により Excel のマクロなどプログラミングも扱った。

Ⅵ. 大学院に関するFD活動

Ⅵ．大学院に関するＦＤ活動

人文社会科学研究科における大学院教育は、学部教育とは目的や体制、そして規模の点で大きな相違があり、それゆえに学部教育とは別個にＦＤ活動を行うことが求められる。本年度の大学院教育のＦＤ活動としては、例年実施している大学院生による「授業改善のためのアンケート」、本大学院の組織的な授業である「三重の文化と社会」についてその報告会と、修士論文発表会に参加した教員へのアンケート、そして大学院教育に関するＦＤ研修会を行った。これらの成果を記録し、大学院教育の現状と課題について理解と共有を深めたい。

１．大学院生による「授業改善のためのアンケート」

この項目については、大変残念な報告をせざるを得ない。大学院生による「授業改善のためのアンケート」は、基本的に学部学生と同じ期間に同様のシステムで、前期・後期にUNIPA を通した Web 入力に基づく回答を促した。ただ、大学院の授業の多くが指導教員との個別指導や少人数で演習形式で行われることに鑑み、個別の授業単位ではなく、大学院生が本年度に履修した授業全体の総括的な評価とすることにした。

だが、そうした趣旨が理解されなかったためか、結果として回答率は著しく低く、前期は地域文化論専攻、社会科学専攻とも回答者は０であり、後期についても地域文化論専攻が１名、社会科学専攻が３名にとどまった。また、自由回答欄への記述も全く見られなかった。大学院の定員（一学年あたり地域文化論専攻８、社会科学専攻７）と現員（地域文化論専攻 17 名、社会科学専攻 15 名）に鑑みても、このアンケート結果では大学院生たちの授業に対する評価や要望をまとめるのは困難である。そのため、本年度はデータ結果の掲載を見送ることとした。

一昨年度の回答率が 47.1％、昨年度が 32.4％であったのに比しても、大きな後退と言わざるを得ない。この間の推移については、もちろん Web 入力への移行の影響もあるが、根本的には現在の大学院教育の実態とアンケートのシステムが照応していない点が問題であろう。アンケート自体は全学的な統一フォーマットで実施されているため、人文学部独自で対応することは容易でないが、自由回答欄への記述を積極的に促すなど、大学院生の要望を汲み取るための工夫が求められる。

２．「三重の文化と社会」報告会、修士論文発表会への教員の参加

大学院教育は基本的に指導教員との個別具体的な指導の下で行われるが、本研究科では地域文化論専攻、社会科学専攻を横断し、一般の院生のみならず社会人院生を含む地域連携型授業として「三重の文化と社会」という科目を開講している。また、修士論文は大学院教育の成果発表として公開で開催してきた。「三重の文化と社会」では学期末に学内及び現地での報告会を実施しており、修士論文発表会と合わせ、大学院生の成果発信の機会が３回あるわけだが、出席した教員にアンケートを実施し、大学院のＦＤ活動のひとつとしている。

①　出席教員について

まず、３回それぞれの出席教員の内訳は以下の通りである。（　）内の数字は、発表者に指導学生が居た教員を示す(内数）。

・「三重の文化と社会」学内報告会
　地域文化論専攻：３名（１名）、社会科学専攻２名（１名）　計５名（２名）
・「三重の文化と社会」現地報告会
　地域文化論専攻：１名、社会科学専攻１名（１名）　計２名（１名）
・修士論文発表会
　地域文化論専攻：11 名（４名）、社会科学専攻１名（０名）　計 12 名（４名）
＊合計：地域文化論専攻 15 名（５名）、社会科学専攻４名（２名）、計 19 名（７名）

出席教員の延べ人数は 19 名であり、一昨年度の 28 名、昨年度の 34 名に比べて減少した。特に社会科学専攻所属教員の減少が目立つ（昨年度との比較で、地域文化論専攻は 20 名→15 名、社会科学専攻は 13 名→４名）。これは三重の文化と社会で取り上げた地域（現地報告会の場所）がいささか不便な尾鷲市であったことに加え、後述のように修士論文発表会に社会科学専攻の院生が居なかったことが反映しているものと思われる。また、昨年度も指摘されたことだが、指導院生のいない教員の参加は、修士論文発表会を担当する委員会メンバーや執行部を除きほとんど見られず、大きな課題となっている。個々の大学院生を複数の教員で指導するという「原則」が昨年度から打ち出されたが、まずはこうした組織的な取り組みに際しての参加を促すことが肝心であると思われる。

それ以前に、修士論文発表会に関して述べれば、本年度は社会科学専攻の大学院生の報告が全くなかったことが大きな問題であることを指摘しておきたい。本年度の大学院修了生のうち、地域文化論専攻では 7 名中 2 名が、社会科学専攻に至っては修了生 3 名の全員が、発表を回避したこととなる。本来は原則として修論提出者全員が発表会に臨むことが求められていた。様々な事情はあろうが、修論発表会は大学院生の研究報告の場であると同時に、本研究科にあっては教育成果を示す機会にもなっており、今後指導教員が意識的に担当院生の参加を強く促す取り組みが求められる。

②　発表内容について

大学院生の発表内容について、「レベルが高い」から「レベルが低い」まで５段階に分け、教員に感想を問うた。「三重の文化と社会」については、学外報告会の出席者が担当の教員２名にとどまったことから、学内報告会と合わせて数字を出した。

母数が少ないため、単純な比較はあまり意味をなさないであろうが、「レベルが高い」「ややレベルが高い」と評価した者が、昨年度に比し「三重の文化と社会」では 84.4%→57.1%に、修論発表会については 81.8%→75%と低下した。

「三重の文化と社会」は大学院１年次に履修することが一般的で、自分の研究フィールドではない地域で、時に方法論も異なる課題に挑む受講生も居る。一般院生以外に、社会人院生や留学生院生も含むことが多く、統一的な指導を行い、全体をまとめる担当教員の苦心も小さくない。この授業に関しては、単年度の評価に左右されず、継続的な取り組みとして充実を図っていきたいものである。

発表内容について（「三重の文化と社会」は学内・学外の合計。以下同じ）							
	レベルが高い	ややレベルが高い	どちらともいえない	ややレベルが低い	レベルが低い	無回答	計
「三重の文化と社会」	1（14.3%）	3（42.9%）	3（42.9%）	0	0	0	7（100%）
修論発表会	4（33.3%）	5（41.7%）	3（25%）	0	0	0	12（100%）
全体	5（26.3%）	8（42.1%）	6（31.6%）	0	0	0	19（100%）

③　発表の形式について

内容面でのやや厳しい評価に比し、発表の形式については、昨年度と同様に高い評価となっている。「整っていた」「やや整っていた」と合わせた数字は、「三重の文化と社会」では 85.7%、修論発表会では 100%を占めている。ほとんどの発表者がパワーポイントを用いており、その技術的な指導を担当教員が行っている成果と言えよう。

発表の形式について							
	整っていた	やや整っていた	どちらともいえない	やや整っていない	整っていない	無回答	計
「三重の文化と社会」	3（42.9%）	3（42.9%）	1（14.3%）	0	0	0	7（100%）
修論発表会	7（58.3%）	5（41.7%）	0	0	0	0	12（100%）
全体	10（52.6%）	8（42.1%）	1（5%）	0	0	0	19（100%）

④　質疑応答について

質疑応答の「質」は、「三重の文化と社会」の現地報告会を除き、報告する大学院生よりも参加した教員の意識と努力に掛かる部分が大きい。アンケートの結果では、「充実していた」「やや充実していた」と評価する者が全体の８割以上を占めている。昨年度の 91%には及ばないものの、高い評価を得ていると言えよう。だが、実態としては、報告に対して意見や質問を出すのは限られた教員であり、一見活発に応答が行われているようであっても、論点は限定的な傾向もある。専門外の報告に対して問題点を指摘し、よりよい研究となるよう指導するのは、「複数指導制」を打ち出した本研究科においてとりわけ向上が求められる教員の能力であると言えよう。次年度以降の発表会で、より実質的な質疑応答が交わされることを祈りたい。

質疑応答について							
	充実していた	やや充実していた	どちらともいえない	やや充実していなかった	充実していなかった	無回答	計
「三重の文化と社会」	3(42.9%)	3(42.9%)	1(14.3%)	0	0	0	7(100%)
修論発表会	3(25%)	7(58.3%)	1(8%)	1(8%)	0	0	12 (100%)
全体	6(31.6%)	10(52.6%)	2(10.5%)	1(5%)	0	0	19 (100%)

⑤　「三重の文化と社会」のあり方についての自由回答

（学内報告会）

・地域の課題に取り組み、TRIO でそれを発表するのはよいシステムだと思うので、過去の成果以上のものが出せるよう、教員の指導法の蓄積もできてきているように感じた。

・今年は留学生が多かったが、それぞれ調査などを通し現地への理解を深めているようだった。

・本研究科の教育・研究の柱のひとつとして大事にすべき科目であり、もっとたくさんの教員、研究者の参画が得られると良い。

（現地報告会）

・学生、院生の発表はいずれもしっかり準備されていて、わかりやすい発表であったと思います。

・指導教員はいろいろと大変でしょうが、継続することは大事だと思います。

⑥　「三重の文化と社会」の報告会についての自由回答

（学内報告会）

・教員の参加が少ないのが残念。（時間帯の一部でも）担当しない人の参加を望む。

・教員、院生、さらには大学院進学希望の学生が参加しやすい曜日・時間帯で開催できるとよりよいと思います。

（現地報告会）
・もう少し現地の方の参加があるとよかったと思います。広報の仕方（地元自治体の協力も含めて）に課題があるように思います。
・発表者は発表のためにきちんと準備していたと思います。それは良かったと思います。

⑦　修士論文／修士論文指導のあり方についての自由回答

・Ｍ１終了段階でも、より簡易な形で発表会を実施してはどうか？
・全体的にしっかり指導が行われているという印象を受けました。

⑧　修士論文発表会のあり方についての自由回答

・全員にパワポによる発表を義務付けてはどうか。専門外の者にも分かり易く伝える工夫を望みたい。
・発表は部外者がわかるよう工夫するよう指導すべき。
・もっと小さい教室で開催しても良いと思う（参加者があまり多くない）。
・報告がすべて地域文化論の日本研究ばかりというのは大変問題あり。報告しない修了生については、指導教員が代わりに担当するなどの対策が必要ではないか。このままでは修論発表会が形骸化してしまう。
・参加者数が少なく、さびしい。

⑨　大学院教育に関する意見

・複数指導の体制をもっと実効性あるものにしていけるとよい。

３．大学院に関するＦＤ研修会

本年度も昨年度に引き続き大学院教育についてのＦＤ研修会を 11 月に実施した。大学院のカリキュラム単位を基礎にしつつ、指導院生の有無に配慮してグループ分けを行い、大学院生の指導法に関して、特に前年度から導入された複数指導制の現状と課題について報告と議論を実施した。

日時　：2018 年 11 月 14 日（水）　14:00～15:00
テーマ：大学院教育―複数指導制の現状分析

［地域文化論専攻］
（１）　言語・文学、歴史学系
出席 18 名、欠席 7 名
［大学院教育―複数指導制の現状分析］
◇報告者：吉丸雄哉
◇報告の概要：
日本語日本文学系は元々語学 1 名文学 3 名での指導体制をとっている。論文発表の機会を M1 で 9 月、M2 で 7 月・11 月と設けており、その折には主指導教員以外がコメントをする。院生は副指導教員の授業も単位の必要がある期間は取り、その後は、院生の性格に応じ、積極的に教員を尋ねてきて複数指導を受けることになるが、専門家でないと指導できないこともあり、主指導教員の指導に任せる。特任教員が実質的に主たる指導教員である院生の場合、以前助言したことが煙たがられたか、現在は上記発表会以外の指導はしていない。忍者学の院生の副指導教員でもあるが、専門の近い院生の指導を任されているが、その院生は今は休学状態で、実質的指導はまだこれから。
◇議論の概要
報告を受けて、以下のような質問、意見が出た。
①複数指導制の利点として、指導が偏らず、より多角的な見方を院生が獲得するということがあるが、専門性の問題もあり、発表会を開く以外に、何か有効な方法があるだろうか？授業を通じて指導をすることはできるが、そのように誘導できるということが複数指導制の意味として十分なのか。
②特任教員は論文審査をする職務を負っていないのではないか。
③特任教員の存在を考えれば、複数指導制には活用法があるのかもしれない。
④分野が近くないと、複数指導は難しい。
⑤主指導教員が行う特別研究の開講学期と複数指導制に齟齬はないか？開講学期は柔軟に、また、特別研究も発表会をそれと考えることができるなど、実施形態も柔軟に考えた方がよいのではないかという意見が出た。

（２）　哲学・思想、社会学、地理学、図書館・情報学
出席 18 名、欠席 7 名

［大学院教育―複数指導制の現状分析］
◇報告者：遠山敦
◇報告概要：
指導のスケジュールは次のとおりである。①論文の主題を決定するとともに、主題に即したテキストや関連文献を読み込む（1 年次）。②テキストを精読しながら論文作成プランを策定し、その後、院生が作成した原稿を毎週検討し、論文の完成につなげる（2 年次）。なお、論文の主題や履修科目については指導教員と院生が相談して決めるが、副指導教員が担当する科目については、できるだけ論文の主題や本人の学力にふさわしい内容になるように配慮して頂いている。また、論文作成の進捗については教員同士の通常の交流のなかで十分把握しているので、複数指導の問題点はとくに感じない。さらに、三重哲学会での発表も複数指導の良い機会になっている。
◇議論の概要：
報告者から、専門の異なる複数の学生が授業を履修した場合にどのように対応すればよいのかについて、問題提起があった。同じ学系の教員からは、それぞれの院生が関心を持つ文献を教員と相談のうえ決定し、授業のなかで順番に検討するという授業方式が紹介された。他の教員からは、複数の院生の共通関心を特定するのは困難なので、単一のテキストを素材とする方法はやはり難しいという指摘があった。また、院生が副指導教員の授業を履修する際に院生の学力・主題に沿った授業内容をしてもらうように指導教員がお願いするのは、研究分野によっては副指導教員の負担になる可能性があるとの指摘が、他の教員からあった。

［社会科学専攻］
（経済）
出席 12 名、欠席０名
◇報告者：野崎哲哉、森原康仁（記録者：堀内義隆）
◇報告の概要
実際に、複数指導制に該当する大学院生を指導する野崎教授と森原准教授に、現状について報告をお願いした。
両者ともに、現時点では全く機能していないという現状であった。機能していない理由としては、テーマ設定の時期が遅い、大学院生の研究テーマが副指導教員のテーマと離れている、制度が導入されたばかりであり具体的な指導方法が曖昧なままであった、などがある。
◇議論の概要
以下のような改善策が出された。
副指導教員の専門が、大学院生のテーマと一致する可能性は低いので、基本的には、問題意識や課題設定の普遍性などについて、他分野からみた指導を行う方向で改善を考えるのが望ましい。
1 年生の時点で、大学院生自身に副指導教員になってほしい教員の授業を履修させ、関係を作っておく。
具体的には、修士 2 年の前期中に研究テーマについての中間報告をさせ、副指導教員が

コメントする機会を設ける。

また、議題とはやや離れるが、留学生の日本語能力が論文を書けるレベルになかなか達しないため、日本語教育について制度的な支援があると望ましいという意見が出された。

Ⅶ. 教員による「FD活動に関するアンケート」

Ⅶ. 教員による「FD 活動に関するアンケート」

1. アンケートの概要

（1）目的と方法

3 月教授会（3 月 12 日）において、来年度以降の FD 活動を一層有意義なものとするために、今年度の FD 活動と今後に向けての要望等についてのアンケート調査を実施した。本章では、当日の研修参加者を対象に実施したアンケートの結果を示す。

（2）質問項目（巻末資料）

質問項目の大きな分類は、次の通りである。(1)6 月 FD 研修会について、(2)大学院 FD 活動について、(3)学生授業アンケートについて、(4)教員アンケートについて、(5)今年度 FD 活動の良かった点・悪かった点、(6)今後の FD 活動の要望、である。質問の詳細は、巻末資料を参照されたい。

2. 調査結果

概要

人文学部教員 33 名から回答を得た。昨年度は 31 名であった。18 年度については学科別の集計も行った。以下、回答内容の概要を記しておく。

6 月 FD 研修会に対する興味等（「興味を持てましたか」「役立ちましたか」）については、昨年と回答傾向がほとんど同じで、研修会への評価はとても高い。12 月に実施した大学院 FD（複数指導制）については興味等の数値が高くおおむね好評であったとみてよいであろう。

自由記述で意見が最も多く寄せられたのが、学生授業アンケートについてである。Web 化に伴う問題、とくに回答率の向上に向けた対策が必要である（6 月研修会の運営にも影響が生じる）。また、「三重の文化と社会」学内報告会、同現地報告会、修士論文発表会などへの教員の参加が少ないとの指摘が、昨年度に引き続きある。大学院教育の充実のためにも参加に努めるべきであろう。

今後の FD 活動への要望に関して、多様な意見や取り上げるべきテーマが寄せられている。新たなテーマ（問題）について情報を共有するとともに、継続性が求められるものについては、地道に行っていくことが重要であると思われる。

①6 月 FD 研修会

6 月研修会：テーマ「昨年度の授業評価アンケートと改善方法等について」

Ⅶ－１　興味を持てましたか　　単位：人

	計	大いに	やや	あまり	全く	不明	不参加
人文学部	33	12	19	1	0	0	1
		36.3%	57.5%	3.0%	0.0%	0.0%	3.0%
文化学科	18	8	9	0	0	0	1
		44.4%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%
法律経済学科	13	3	9	1	0	0	0
		23.0%	69.2%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%
不明	2	1	1	0	0	0	0
		50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

Ⅶ－２　役立ちましたか　　単位：人

	計	大いに	やや	あまり	全く	不明	不参加
人文学部	33	11	19	2	0	0	1
		33.3%	57.5%	6.0%	0.0%	0.0%	3.0%
文化学科	18	7	9	1	0	0	1
		38.8%	50.0%	5.0%	0.0%	0.0%	5.0%
法律経済学科	13	4	8	1	0	0	0
		30.0%	61.5%	7.6%	0.0%	0.0%	0.0%
不明	2	0	2	0	0	0	0
		0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

自由意見

・具体的な授業をもとにディスカッションできるのは有益だった。
・これまで通りでよい。
・授業評価アンケートの分析は、やり尽くした感があるのでテーマを変えてほしい。

②大学院 FD 活動について

●テーマ：１１月研修会「大学院教育―複数指導制の現状分析」

Ⅶ－３ 興味を持てましたか 単位：人

	計	大いに	やや	あまり	全く	不明	不参加
人文学部	33	11	16	3	0	1	2
		33.3%	48.4%	9.0%	0.0%	3.0%	6.0%
文化学科	18	7	7	3	0	1	0
		38.8%	38.8%	16.6%	0.0%	5.5%	0.0%
法律経済学科	13	3	9	0	0	0	1
		23.0%	69.2%	0.0%	0.0%	0.0%	7.6%
不明	2	1	0	0	0	0	1
		50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%

Ⅶ－４ 役立ちましたか 単位：人

	計	大いに	やや	あまり	全く	不明	不参加
人文学部	33	8	18	3	0	2	2
		24.2%	54.5%	9.0%	0.0%	6.0%	6.0%
文化学科	18	6	7	3	0	2	0
		33.3%	38.8%	16.6%	0.0%	11.1%	0.0%
法律経済学科	13	2	10	0	0	0	1
		15.3%	76.9%	0.0%	0.0%	0.0%	7.6%
不明	2	0	1	0	0	0	1
		0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%

自由記述

●研修会の内容、運営の仕方について

・大学院を担当していないので実感がもてなかった。

・今年度と同じくらいの人数（10 数人）の単位で集まるのがちょうど良い。あまり多いと双方向の質疑が難しいので。

●「三重の文化と社会」学内報告会、同現地報告会、修士論文発表会への参加について

・参加者が少ない。指導教員が無責任ではないか。

・全員がどれか一つに参加する意識をもってほしい。FD 活動の一環と考えるのがよいと思う。

●研修会や講演会で取り上げてほしい大学院 FD に関するテーマ
・学生獲得の方法について（それに伴う FD の必要性があるから）。
・留学生対応について。
・LGBT、とくにトランスジェンダーの学生への理解と対応。
・行政文書における「性別」欄の廃止の動きについて（小中高では対応が始まっています）。
・社会人入学者などの生涯学習としての大学院教育について。
・複数指導制について継続的に取り上げてほしいです。
・大学院教育における質の保証に関する講演会。

③学生授業アンケートについて

自由記述

・授業終了前にスマホを使って入力させるというのは、以前の紙媒体での記入よりも時間がかかると思います。スマホを持っていない、忘れた学生もいるでしょうし、授業内の貴重な時間を使うのでは、Web のメリットがありません。
・紙媒体の場合、学期末で残り授業時間が少なくなっている時期に、アンケートに時間をとられることは困るのだが、ウェブ入力にするとどれだけの学生が本当にかつまじめに回答するのか疑問でもある。
・質問項目に意味がない。
・Web による回答率の up が重要。
・授業中に回答させるのはやめてほしい（回答率も向上しない）。

④教員による授業アンケートについて

自由記述

・アンケート用紙は、メールででも配布していただけたら便利だと思います。
・プリント 1 枚配られているが、必要枚数を複写するのは煩雑なため、メール添付でファイルを送ってほしい。

⑤今年度の FD 活動の良かった点と悪かった点

自由記述

・毎回新しい気づきがあって、役に立っています。
・地道に続けることに意義があると思います。

⑥今後の FD 活動に対する要望

自由記述

・専門 PBL セミナーの FD にしてほしい。
・負担の少ない FD を。

巻 末 資 料

巻末資料１　授業（講義・演習）に関する教員アンケート（2018 年度・前期）

＊ご担当の授業について科目毎に、教員ご自身でご記入ください。枚数が足りない場合にはコピーをお願いいたします。

Ⅰ．教員氏名　【　　】

Ⅱ．所属　　１日本　２アジオセ　３アメリカ　４ヨーロッパ
　　５統治　６生活法　７企業経営　８地域経済

Ⅲ．授業科目名、授業種別(講義／演習)、曜日・時限、担当教員の人数

(1) 授業科目名　【　　】

(2) 授業種別　（１講義　２演習）

(3) 曜日／時限　【　　／　　】　＊週２回講義の場合は１回目の時限

(4) 担当教員の人数　【　　人】

Ⅳ．この授業で使用している教材･機器　＊複数回答可

１．教科書　２．プリント　３．参考書　４．ビデオ・DVD　５．OHP
６．パワーポイント　７．パソコン（６以外）　８．実物または模型　９．Moodle
10．その他［　　］

Ⅴ．この授業で取り入れているもの　＊複数回答可

１．学生を指名する　２．ビデオ・DVD　３．現場見学･観察　４．実習、実地調査
５．ディベート　６．ディスカッション　７．(学生による）プレゼンテーション
８．リアクション・ペーパー　９．Moodle　10．小テスト
11．その他［　　］

Ⅵ．試験･レポートなどを学生に返却していますか　＊予定を含む

１．全員に返却　２．希望者に返却　３．返却しない　４．試験・レポートを課していない

Ⅶ．学生の独習の意欲を向上させるためにどのような工夫をしていますか
（例、宿題を課している、小テストで学習状況を確認している、教材や資料などを紹介している）
［　　］

Ⅷ．休講について
今学期の休講回数　【　　回】
休講する際には　１．補講をしている　２．補講に相当する措置をとっている（例　読むべき資料を提示している。）［　　］

Ⅸ．昨年に比べて何か工夫した、あるいは改善した点などがあれば、その内容を書いてください。
＊裏面を使用しても構いません。

巻末資料２　2018 年度「三重の文化と社会」学内報告会・アンケート

Ⅰ．ご所属をお答えください。（〇印）　　１地域文化論専攻　　２社会科学専攻

Ⅱ．ご指導の大学院生の報告がありましたか（〇印）　　１あった　　２なかった

Ⅲ．この発表会のご感想をお教え下さい

①発表の内容について（〇印）　　１レベルが高い　　２ややレベルが高い
３どちらともいえない　　４ややレベルが低い　　５レベルが低い

②発表の形式について（〇印）　　１整っていた　　２やや整っていた
３どちらともいえない　　４やや整っていない　　５整っていない

③質疑について（〇印）　　１充実していた　　２やや充実していた
３どちらともいえない　　４やや充実していなかった
５充実していなかった

Ⅳ.「三重の文化と社会」のあり方に関して、コメントがあればお書き下さい。

Ⅴ.「三重の文化と社会」の報告会のあり方に関して、コメントがあればお書き下さい。

Ⅵ．その他、大学院教育全般に関することを含めて、ご感想があればお書き下さい。

ご協力いただき、ありがとうございました。（人文学部ＦＤ委員会）

巻末資料３　2018 年度 FD 活動に関するアンケート

※入口のボックス回収箱に提出お願いいたします。

所属（〇印）:　　１．文化学科　　２．法律経済学科

Ⅰ．６月 FD 研修会について、以下の質問にお答えください。

※テーマ：昨年度の授業評価アンケートの分析と改善方法等について

(1) 興味をもてましたか。

1. 大いに興味をもてた　2. やや興味をもてた　3. あまり興味をもてなかった
4. 全く興味をもてなかった　5. わからない　6. 不参加

(2) ご自身の FD に役立ちましたか。

1. 大いに役立った　2. やや役立った　3. あまり役立たなかった
4. 全く役立たなかった　5. わからない　6. 不参加

(3) 研修会の内容、運営の仕方などについて、ご意見があればお書きください。

Ⅱ．大学院 FD 活動について

1. １１月研修会（専修単位）

テーマ：「大学院教育―複数指導制の現状分析」

(1) 興味をもてましたか。

1. 大いに興味をもてた　2. やや興味をもてた　3. あまり興味をもてなかった
4. 全く興味をもてなかった　5. わからない　6. 不参加

(2) ご自身の FD に役立ちましたか。

1. 大いに役立った　2. やや役立った　3. あまり役立たなかった
4. 全く役立たなかった　5. わからない　6. 不参加

(3) 研修会の内容、運営の仕方などについて、ご意見があればお書きください。

裏面へ

2. 今年度も、大学院 FD 活動として「三重の文化と社会」学内報告会、同現地報告会、修士論文発表会への参加を予定していますが、この点についてのご意見があればお書きください。

3. 研修会や講演会で取り上げてほしい大学院 FD に関するテーマがありましたら、お書きください。

Ⅲ. 学生授業アンケートについて

今年度から始まった新たな学生授業アンケート全般について、ご意見があればお書きください。

Ⅳ. 教員アンケートについて

学生授業アンケートと同時に実施している教員アンケートに関するご意見・ご希望等がありましたら、お書きください。

Ⅴ. 今年度の FD 活動の良かった点や悪かった点をお書きください。

Ⅵ. 今後の FD 活動に対するご要望がありました、お書きください。

ご協力ありがとうございました。

巻末資料４

2018 年度人文学部 FD 委員会　年間活動

１．委員会の構成

委員長　小田敦子　　委員　塚本　明　　委員　上井長十

２．委員会の開催

第１回 FD 委員会　４月 17 日（水）
１．年間計画について
２．予算について
３．議事録について
４．その他

第２回 FD 委員会　5 月 16 日（水）
１．6 月 FD 研修会について
２．9 月 FD 研修会について
３．その他

第３回 FD 委員会　7 月 18 日（水）
１．6 月研修会について（報告）
２．授業アンケート・教員アンケートについて
３．9 月 FD 講演会について
４．大学院 FD について
５．FD 報告書の内容について
６．その他

第４回 FD 委員会　9 月 12 日（水）
１．11 月 FD 研修会について

第５回 FD 委員会　12 月 19 日（水）
１．学生授業アンケートについて
２．教員アンケートについて
３．FD アンケートについて
４．他のアンケート（三重の文化と社会、修論発表会）について
５．FD 報告書について
６．その他

第６回 FD 委員会（メール会議）　2 月 20 日（水）
１．FD 報告書の作成
２．授業アンケート対象科目について
３．その他

３．FD 研修会の開催

6 月 FD 研修会　6 月 13 日（水）14:00～15:00
両学科のカリキュラム単位（計８つ）で実施
テーマ：2017 年度実施授業アンケートの自己分析と改善方法
内容：報告者によるテーマに関する報告と討議

４．FD 講演会の開催

9 月 FD 講演会　9 月 12 日（水）14:00～15:00
会場：人文学部大会議室
講師：野田　明氏（教養教育院アクティブ・ラーニング推進室長）
　　長濱文与氏（教養教育院アクティブ・ラーニング推進室員）
演題：教養教育におけるアクティブ・ラーニング

５．FD アンケートの実施

（１）授業アンケート（前期・後期）の実施
ユニバーサルパスポートにより実施

（２）教員授業アンケート（前期・後期）の実施
学生による FD アンケート期間に実施
講義・演習のあり方や工夫等々に関して教員に尋ねるアンケート

（３）FD 活動総括アンケートの実施
3 月教授会の際に実施
年間を通した FD 活動（研究会、講演会、アンケート等々）に関する意見を求めるアンケート

６．大学院関係 FD 活動

（１）FD 研修会の開催
11 月 FD 研修会　11 月 14 日(水)14:00～15:00
4 グループに分けて実施
テーマ：大学院教育―複数指導制の現状分析

内容：報告者によるテーマに関する報告と討議

（２）大学院授業アンケートの実施
前期・後期アンケート（ユニバーサル・パスポート）期間に実施
当該大学院生が履修した授業科目全体に関するアンケート

（３）修士論文発表会でのアンケート
2 月 28 日(木)に選考単位で実施

（４）授業科目「三重の文化と社会」院生報告会（学内・現地）でのアンケート実施
1 月 22 日（火）学内報告会で実施
1 月 26 日（土）　現地報告会（尾鷲市　三重県立熊野古道センター）で実施

2018 年度三重大学人文学部におけるＦＤ活動報告書

発行　2019 年 9 月 30 日
編集　人文学部ＦＤ委員会
（小田敦子、塚本　明、上井長十）
印刷　伊藤印刷株式会社